全日本女子出発
夢のせる3大陸代表決定戦

モントリオール・オリンピック栄光の座18（男12、女6）のうち残りただ一つをめぐる過酷な戦いへ向かって全日本女子（井監督ら役員2、選手12）が、6月21日午後2時40分羽田国際空港から元気に飛び立っていった。

オリンピック史上初の女子ハンドボールは、6ケ国のリーグ戦によって、7月20日から5日間聖火のもとで熱戦をくりひろげるが、すでに5カ国（東ドイツ、ソ連、ハンガリー、ルーマニア、カナダ）が決定、残るは日本(アジア)、アメリカ(アメリカ)、チュニジア(アフリカ)による「3大陸代表」1カ国だけ。

代表決定戦は、6月28日から7月3日まで、アメリカ・ミルウォーキー市の「ホワイトフィッシュ・ベイ高校」体育館で、3カ国の2回総当りによって争われる。

日本代表チームは、本誌既報のとおり、5月23日の全国理事会（東京）で決定され、その後、およそ一カ月、〝オリンピック選手〟を目指して充分なトレーニングをつんだ。（関連記事2頁）

井薫監督、鈴木義男コーチは「自信をもって乗りこむ。選手たちに特別な圧迫感はない。存分に戦って、男女そろってモントリオールへ臨みたい」と決意を語っている。実力的には、昨冬の世界選手権（ソ連）で、アメリカには17—10、チュニジアには26—10で勝っており、日本優位とみられるが、〝タイトルマッチ〟での外国の強さは格別だけに予断は許せない。

勝てば、7月4日ミルウォーキーから直接モントリオールへ向かい、オリンピック選手村に入るがそうなれば、日本選手団の一番乗りになる予定だ。（注・ハンドボール男子ら第1陣は7月8日モントリオール入り）

【全日本女子代表】

- 監督　井　薫
- コーチ　鈴木　義男
- GK　和田　祥子（立石電機）
  久保　徳子（ジャスコ）
- FP　島田　夏枝（立石電機）
  蔵田　照美（立石電機）
  山下恵美子（立石電機）
  紀野奈々美（立石電機）
  松下　仁美（ジャスコ）
  河田　栄子（ジャスコ）
  加藤美起子（ビクター）
  穂積美保子（ビクター）
  古佐原ひろ子（東京重機）
  小森久里子（ブラザー）

出発前の選手に聞く

島田夏枝主将　3大陸予選で勝つ意味の大きさが日増しに判ってきます。チームワークも上々ですし、全力で代表権をかちとります。

古佐原ひろ子選手　相手の力が判っているので不安はないが、日本同よう各国も、この一戦にかけている執念はすごいと思う。技術より気力の勝負になるでしよう。

蔵田照美選手　アメリカが強いと聞きますが、半年間で急激に手に負えなくなるほど成長するとは思えません。我々が持てる力を出し切れるかどうかです。

和田祥子選手　幸運な時代にプレーしていると思います。オリンピック出場を遂げるにはチュニジアを侮らず、アメリカを恐れずの気持が必要です。

久保徳子選手　代表に選ばれて会社のかたがお祝いを云って下さいますが、まだピンときません。〝本当の代表〟になれるよう頑張ります。

山下恵美子選手　過去の世界選手権は厳冬の欧州でしたが、今回は初夏ですし、身体の冷えも少なく、日本は得意のスピードプレーをフルに発揮できると思います。

松下仁美選手　今までとちがって今回の試合は「自分のため」だけではありません。

昨冬の世界選手権の経験を活かして、夢を果したいと考えてます

小森久里子選手　変則的といわれる私の攻法は、自分で考え出したものであり、どこまで外国勢に通じるか、初遠征だけに期待と不安が交錯しています。

加藤美起子選手　勝ちたいですみんなも、そのことだけしか考えていません。色々な情報を耳にしますが、ここで負けては、今までなんのために……。

穂積美保子選手　自分にとって遠い存在だった「オリンピック」が目前にせまって怖いような気もします。

〝モントリオール〟のことは考えずに予選には出るつもりです。

河田栄子選手　負けたらどうしようとも思いますが、これまで苦しい練習に耐えてきたのは、なんのためだったのかと考えると新たなファイトが湧いてきます。

紀野奈々美選手　郷里(大分)の人も喜んでくれたのですが、まだ大難関があります。チュニジア戦から一つ一つ大事に戦って、「お祝い」を真実のものにしたいです

3大陸代表決定戦日程

- 6月28日　アメリカ×チュニジア
- 6月29日　日本×チュニジア
- 6月30日　日本×アメリカ
- 7月1日　チュニジア×アメリカ
- 7月2日　日本×チュニジア
- 7月3日　日本×アメリカ

（前号4日を訂正）

「ハンドボール」51年7月号（第143号）目次

【表紙写真】日韓学生最終戦、関東学生は蒲生（右、中大）の活躍などで辛くも韓国学生の連勝を食い止めた（6月8日・駒沢体育館）

撮影・山田真市

悲願かけた全日本女子（オリンピック候補）合宿

3大陸代表決定戦の壁突破は、けしてなまやさしいことではない。

しかし、「男子につづこう」を合言葉にした全日本女子（オリンピック候補）の、すさまじいばかりの斗志は、必ずやよい結果を生むだろう。

本誌では、5月14日から25日まで三重県四日市市で行われた今年度第2次強化練習を取材した朝日新聞・改田智洋記者に、意気あがる合宿のリポートを寄せてもらった。

燃えあがる斗志、執念

「男子とともに足並みをそろえなくてはならない。これが我々に課せられた使命だ」と井薫監督はきっぱりいった。オリンピック出場。男子がすでに決定している今まだその切符を手中に納めていない女子チームにとってはぜがひでも達成しなければならないことだ。このため、他の競技団体の代表チームが「何個のメダルを獲得する」それも金メダルを」などと胸算用しながら強化練習に励んでいる時「まず出場権獲得を」に燃えて強化合宿に励んでいたのだ。

「オリンピックに男女を出したい。これは私の執念だったし、我々ハンドボール関係者の悲願だ」と日本ハンドボール協会の荒川清美理事長はいう。

「男女が参加することで日本のハンドボールの二次的な出発点となり、新しい時代が来る」と井監督、そして「三大陸予選では勝てるでしょうではなくて、勝たなくてはいけないのです」と島田夏枝主将は堅い決意をのべた。

単独チーム同ようのまとまり

オリンピック出場の切符を手にするため一番重要とみられる四日市での強化合宿、選手の動きはいい。コンビネーションも取れていた。島田主将が「このメンバーを組んで2年たちます。だからいまでは初めのころのような寄せ集めという感じはまったくありません。各チームから集っていても今はひとつのチームという感じです。気がねなく何んでもいい合えますから…」といった。

練習の途中、突然動きを止めて話合いを始める。納得のいかないプレーが出て来たら意見を出し合ってそのプレーを理解するためのようだ。フォーメーションの練習に加わらず横で見ている選手たちも互いに意見を出し合って確認をおこたらない。この時も歯に衣をきせたようないい方は互にしない。これで選手相互の信頼感はますます深まっていく。

苦境こそ精神的にも強さ

この合宿、ジャスコに専用の体育館がないため、四日市市体育館さらに体育館使用不能の時はジャスコのアウトコートでと、〝渡り鳥〟的なものになった。そして中間で雨が降った時は午後から休み。

もっともアウトコートは半日だけ。「休みはたまたま雨になったからで体育館がなかったからではない」という。それにしてもオリンピックに行こうというチームの合宿にしてはちょっと気の毒な感じがした。しかし、選手たちはこの〝渡り鳥合宿〟を苦にはしていなかった。それればかりか逆にいつも同じ所でやるより、異った環境でやれるということは気分が新らたになっていいものですよと歓迎していた。苦境を苦境とも思わず、いい方にいい方にと考えていこうとする選手や役員、なんとなく現在の女子ハンドボールの立場のような感じだった。この苦しみに耐えた（選手たちはさほど苦とはしてないようだが）ことが、ひとつのフォーメーションプレーを覚えるよりも精神的にずっと強くなりプラスになったのではないか。

二対二の練習。鈴木義男コーチの投げた球を奪った方が攻め、他が守る。攻守の切り換えの練習に役立つようだ。それもスピードに乗ったものだった。そしてジャスコチームに守備についてもらっての攻撃では、サイドポストと切れ味のある速い動きを見せていた。なかでも島田の動きと松下のシュートはいいものが出来あがっている感じがした。

カギ握る守りの力

守備練習も当りはまずまず。ただ、ディフェンスが前で当った時ポストに切り込まれるとポジションのフォローが一瞬遅れる。スタートメンバーでのディフェンスではなかったようだが、このあたりにトップレベルの選手と次の選手との層の開きを感じた。

「この合宿での成果は十分にあがった」と関係者はいう。鈴木コーチは「フリースローからのフォーメーションも十個以上マスターした。フリーフォーメーション、速攻など日本の特徴を生かした動きを数多く取り入れて練習した。これで何点取れるかということはだいたい計算出来る。あとは失点をいかに食い止めるかでしょう」と選手たちの動きを追いながら話した。井監督もアメリカとチュニジアには世界選手権での点差では勝てないにしても日本が、いままでのプレーに徹すれば、予選のカベは突破出来ると自信のほどをほのめかした。

しかし楽観は出来ない。特にアメリカ戦。アメリカはバスケットボールからの転向者が多い。だから上背がある。そのうえ、本場東独からコーチを招いて強化をはかっていた。この成果があがるのを見越して開催期日をぎりぎりまで引き延ばしたものといわれる。それに開催地がアメリカ、敵地へ乗り込んで試合をしなければならない。日本は六分四分の実力差では危ない。会場のムードに呑まれず力を出し切るためにはよほどの実力差がなければいけない。この差を6月の最終合宿中でどれだけつけただろうか。その結果は七月三日に出る。【改田智洋・朝日新聞名古屋本社運動部】

ブレザーコートの採寸も

全日本女子チームは、6月8日日本体協で、モントリオール・オリンピック日本選手団制服（ブレザーコート）の採寸をした。

オリンピック出場が未決定なうちに、このようなことが行われるのは異例だが、選手たちは「どうしてもこの制服を着て、憧れの開会式をパレードできるよう頑張ります」と決意を新たにしていた。

男子は「上位進出」へ意欲

史上2度目の男子オリンピック代表の強化合宿は、5月26日から6月1日まで東京で第1次、6月10日から24日まで三重県鈴鹿市と名古屋で第2次、そのあと6月31日から7月7日まで総仕上げが東京で行われる。

◇

ミュンヘンにつづいての出場は四人（別表○印）だけ。半数以上が「初」とあって、第1次合宿の集合は、さすがに喜色あふれたもの。

それも束の間、翌日からは、徹底した基礎体力のトレーニングが繰り返され、パワーアップがはかられた。

竹野監督は「スピードとコンビネーションが上位（6〜8位）進出へのカギ」とみており、ヨーロッパ勢に対して、正面から〝日本戦法〟で挑むことを明きらかにしている。

また、大課題のディフェンスの強化も、着々と目標点に近づいているようで期待がかけられる。

出発は7月8日午前7時50分羽田発の日本選手団第1陣（日航特別機）。その前日7日には、東京代々木国立体育館別館での日本選手団結団式へ臨む。帰国は31日。

林副会長らも訪加

JOC（日本オリンピック委員会）は今回も各競技団体役員による「視察団」を編成するが、日本協会からは、林達夫副会長、荒川清美理事長の両氏が参加する。

ソビエトが優勝 スペイン国際

オリンピックの前哨戦として注目されたスペインバルセロナ国際トーナメントは、6月はじめ5カ国が参加して行われ、予想どおりソ連、ルーマニアの優勝争いとなったが16—16の引き分け、得失点差でソ連が1位となった。3位ポーランド、4位スペイン、5位スイス。

【お詫びと訂正】本誌前号3頁、オリンピック代表の横顔・佐々木選手の項で「学生トリオの一人」は誤りでした。

また、同7頁女子・小森選手を「ブラザーの生んだ最初の海外派遣代表」としたのは、「鳥居君子選手につぐ二人目の代表」に訂正

【オリンピック代表】

・監督　竹野　奉昭
・コーチ　東　嘉伸
・GK　○本田　洋（大阪イーグルス）
　柴田　正章（本田技研鈴鹿）
・FP　藤中　憲二（大同製鋼）
　○中井　武三（大同製鋼）
　松原　光三（大同製鋼）
　花輪　博（大同製鋼）
　○木野　実（湧永薬品）
　穂積　豊彦（湧永薬品）
　佐藤　要二（本田技研鈴鹿）
　○佐々木健一（三　景）
　菊池　悟（東京12ｃｈ）
　蒲生　晴明（中　大）

男女代表チームの選考基準

日本協会はこのほど、男女オリンピックチーム（女子は3大陸代表決定戦出場チーム）の選考にあたって、男女ナショナルチーム・コーチングスタッフが定めた〝基準〟の概要を明きらかにした。

いずれも、5月23日の全国理事会（東京）で公表されたものである。

連携力と展開力を重視

男子

予選リーグA組の対戦国（西ドイツ、ソ連、ユーゴ、デンマーク、カナダ）はいずれも強力なパワーを特色とし日本の俊敏性がどのように通ずるかが〝勝負〟であり、〝課題〟である。

この点を念頭にして、選考にあたり、次の各項を基準とした。

①昨冬の全日本総合選手権以降の各大会を視察した結果、特に候補選手として追加するプレイヤーはなく「50年度ナショナル」（GK3、FP16）の中から選考する。

②長期間にわたる遠征のなかでの精神・身体の調整を充分にでき得る者

③戦略的基準として次の3点を考える

（イ）積極的ディフェンスを基盤とした動きと、連携によって体格的不利をカバーできること。

さらに「6—0（一線）」「5—1」及び「指定マン・ツウ・マン」の能力を考慮する

（ロ）スピードと変化に対応できることを前提として「日本的速攻」を第一の武器に、ポスト、サイドの攻撃者を助けて幅を拡げる。

個々には、シュート力はもちろん、ボールを持った時のパワープレーとボールを離したあとの攻めの〝迫力〟を考慮する

（ハ）チームプレーに徹し、攻防のスピードに対応できる肉体的、精神的試合展開力に秀れていること。

予選控え精神力強調

女子

3大陸代表決定戦を突破し、オリンピック出場権を獲得、本大会では、カナダは敵とみず、ヨーロッパ勢の一角——ハンガリーもしくはルーマニア打倒を目指し、ベスト4進出を「最終の目的」とする。

これまでの世界選手権では、日本特有の攻撃である速攻とクイック・ローリングを多用、守備面では強烈なロングシュートと、厚味のある体躯を利したポストプレーの封じこめに主眼をおいていたが今回も、基本的には、この二点であり、選考もその線にそった。

どにもかくにも、3大陸予選をともかくパスしなければ話にならぬわけで、世界選手権（50年12月）で、アメリカに17—10、チュニジアに26—10の実績はあるものの、ここ一番に感じるプレッシャーは日増しに強まると予想され、精神力の強さが、かつてないほど重視された。

特に今回の予選会場がアメリカであり、〝遠征〟の不利は否めない。また、時差の問題も、これまでの海外経験が、ほとんどヨーロッパであることから不安を残す。

技術的優位は認められても精神的ハンデは、これまでになく強くカギは、国内における強化合宿で選手たちが、どれほど〝不動の自信〟を得るかにある。

キャリア豊かな即戦力を打ち出したゆえんだ。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

新潟ハンドボール協会長
近　藤　薬　局
柏崎市東本町２丁目
TEL 02572―2―2604

スポーツ用品　体育器具全般
あけぼのスポーツ用品店
名古屋市昭和区北山本町１―９
（曙町１交叉点南）
TEL (052)731―5267　733―2344

大きな夢　豊かな暮らし
生活に密着したアルミ容器の総合メーカー
武内プレス工業株式会社
代表取締役　武内宗八
本社工場　富山市上赤江町７丁目10番１号
TEL 0764（41）1856（代）
大阪工場　神戸工場・東京営業所・名古屋営業所

愛知県ハンドボール協会推薦
ゴールドキング印トレーニングパンツシャツ製造発売元
有限会社　小　林　産　業
名古屋市西区平出町367番地
〒452 TEL (052)501―7028

オニツカタイガー用品・スポーツ服装・専門店
株式会社　イナガキスポーツ
名古屋市東区水筒先町４―４
TEL　052―935 {5075 / 8110}

一般運動用品　体育施設
株式会社　北野屋スポーツ
柏崎市東本町１丁目　TEL 02572（３）2345，5013

板　垣　工　作　所
和歌山市広瀬中ノ丁２の21
TEL 0734―23―5394

トヨタと共に躍進するセントラル
クラウン，コロナ，ライトバン，救急車
セントラル自動車株式会社
ハンドボール部
〒229 神奈川県相模原市大山町４番12号
電話・相模原局（0427）72―6111（大代表）

福井県ハンドボール協会
会長　伊　藤　仁　和

日産石油化学株式会社
〒290 市原市五井南海岸11番地
TEL（0436）21―6111（大代表）

暮しの必需品をお安く奉仕!!
これがマスダのテーマです
ショッピングデパート
マ　ス　ダ
社長　増田　一（茨城県ハンドボール協会顧問）
茨城県水海道市宝町２７７１

筑波山頂の豪華なリゾート・ホテル
国際観光旅館連盟会員・日本交通公社協定
政府登録　山　水　荘　ホ　テ　ル
茨城県筑波郡筑波町１０５１
電話(02986)6―0721（代表）
東京案内所（03）231―2642

皆さんお元気ですか。茨城国体で福岡チームをお世話した石黒です
政府指定米穀
集荷業者　石　黒　商　店
代表取締役　石　黒　信　義
茨城県水海道市渕頭町２９１４
電　話（02972）３―1511（代）

長野県ハンドボール協会長
戸　塚　一
長野県佐久市岩村田
TEL 02676―7―2400

株式会社
木　下　組
常務取締役社長
県ハンドボール協会副会長　木下　秀夫
本社・長野県佐久市中込146―1

思い出の富山チームの皆さん。また合宿にでもお出かけ下さい。
フルヤコンクリート工業
取締役会長
市商工会長　古　谷　国　三　郎
茨城県水海道市中妻町
電話（02972）２―0077

なつかしい富山チームの皆さん，今年も頑張って下さい
石　塚　建　材
代表取締役　石　塚　信　一
茨城県水海道市中妻町９３２
電　話（02972）２―１７１８

包　装　資　材　卸
株式会社　サ　ガ　ネ　商　店
代表取締役社長　嵯峨根　宏　行
京都市上京区丸太町千本東
TEL（075）811―5161

京都府ハンドボール協会
会長　木　下　彌　三　郎

京都府ハンドボール協会
副会長　立　石　孝　雄

日本協会、AHFへ加盟申請　来春アジア選手権

日本協会は、6月19日の月例常務理事会（東京）で、今春、新発足したAHF（アジア・ハンドボール連盟）への加盟届を正式に提出することを決め、6月中に手続きを完了させる。

AHFは、日本協会に対し、2年前の発起段階から積極的な加盟呼びかけをしていたが、日本協会は、IHF（国際ハンドボール連盟）の姿勢が不明瞭なことなどもあって、静観しつづけていた。

しかし、今春1月、IHF代表者も出席した席上でAHFが旗上げされたことや、6月に入ってAHFから規約とともに、加盟を促す書信が送られてきたことなどもあって、この日の決議になった。

AHF問題に関しては、全国代議員会、同理事会とも田村正衛会長、荒川清美理事長に全権を一任していた。加盟金は25ドル（約七千五百円）、年会費85ドル（約二万六千円）。

なお、AHFはこのほど、来年3月クウェートで「第1回アジアハンドボール選手権」を開くことを明らかにした。

AGF加盟国に限定　AHF規約

AHF加盟と今後の問題点

AHF問題に関して、この2年間日本の腰は実に重かった。

再三招集されたAHF会議には財政的な理由もあったが、いちども代表者を送らず、もっぱら第三者からの情報で、情勢判断をしていた。

それだけに、今回の加盟申請は「ようやくにして」という印象が強いし、どうせなら早々と態度を決められなかったものか、とも思う。

しかし、荒川理事長に事情を聞けば、ここまで延びた理由も納得できるのである。

IHF(国際ハンドボール連盟)が、AHF結成に「待った」をかけるようなゼスチャアを示し、昨年5月と12月の2回、AHFの会議には「出席する必要はない」とまで通達してきていたのだ。

IHFが、なぜこのような〝強気な姿勢〟をとったかは、既に本誌へ何回も書いているように、アジア地域を「極東」「近東」に分けるという自案にこだわっていたからだ。

（日本協会は、いちどIHF案の合理性を認めていたが、最近は世界選手権やオリンピックへの出場権がアジアに二カ国以上配分されなければ意味がないとし、イスラエルを当分「極東」に組みこむという構想にも難色を示していた）

1月のAHF結成会議で、IHFの二分案は、「アジアは一つ」とする出席各国に一蹴され、この時点で、IHFはAHFを〝認知〟したも同然だった。

日本協会としてみれば、これでAHFへの加盟は、どこにも気がねなく円滑に運べるわけだったが田村会長、荒川理事長は、なお慎重。AHFから規約が届けられてから手続きするという見解で進んできていた。

さて、日本側は、すべてスッキリしたが、AHFとIHFとの関係は、まだまだ〝波乱含み〟。

なかでも、「AHFへの加盟資格」（規約第1条の2）の一つとしてAGF（アジア競技連盟）のメンバーであることがあげられているのは微妙。

これからすれば、48年11月のAGF評議員会（テヘラン）で、席を失った台湾は、AHFに入れぬことになる。台湾はIHFの正メンバーであり、オリンピック、世界選手権への参加資格がある。

もし、AHFが、これらの大会のアジア予選をAHF加盟国で行なおうとした場合、どうなるか。

例えば、来年3月の第1回アジア選手権（クウエート）を、次の世界選手権Aグループ（53年1月デンマーク）のアジア予選も兼ねるとAHFが主張した時、IHFは首をタテにふるならそれでいいが

「ノー」の時、IHFはAHFを説得しえる力があるだろうか。

日本協会は、早くも「アジア選手権のほかに予選会が行われるよりなら、財政的にとてもつきあい切れない」としている。アジア各国ではこの考えが支配的だ。

日本協会国際担当の境井秀三常務理事は「将来はともかく、一気にそこまで飛躍しないのではないか」とみているが、〝楽観〟は許せまい。

AHFの結束ぶりは既に実証ずみだけに、IHFのでかたが注目される。

IHF選出理事についても今後はもつれがみられそう。

今のところ、現理事の渡辺和美氏（日本）を「自動的に承認する」というのがAHFの意向だが、次期の保証はない。

渡辺理事も大本山の拡声器的存在ではなく、これまで以上にアジアとAHFを理解すべきだろう。

（杉山　茂・NHK運動部）

男女ともトーナメント

今年の全日本総合選手権

日本協会は、6月の月例常務理事会で、今年度以降の全日本総合選手権について協議した。

日本リーグ発足にともなって、改正機運にあった現行のシステムを最終検討したもので大筋の決定をみた。

それによると、男女ともこれまでの「予選トーナメント・決勝リーグ制」から、「トーナメント」一本に改め、参加チームは、日本リーグ加盟チーム(男女各8)を含め男子24、女子16（現行男子16、女子12）と変える。

推せん母体は、加盟団体（全国連盟）が主だが、高体連代表と女子次年度国体開催地代表は消える

この方法は、とりあえず来年度までとし、第30回大会の53年度からは、ブロック代表主体に再編成将来は、47都道府県対抗とすることが確認された。

今年度（12月8～12日・東京体育館）の出場枠次のとおり。

(男子24)▽前年度優秀1▽日本リーグ8▽全日本学連4▽全日本実連4▽全日本教職員2▽全日本自衛隊1▽社会人東1、同中1、同西1▽開催地1

(女子16)▽前年度優秀1▽日本リーグ8▽全日本学連3▽全日本実連2▽社会人1▽開催地1

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

美津濃 adidas 特約店
昌永スポーツ
甲府市中央四丁目桜りアーケード街

高級帯地
一秀
京都市上京区堀川通今出川下ル西側
西陣産業会館内
TEL（075）431—0147

京都染色資材株式会社
出野勝志
京都市中京区壬生大竹町54
TEL（075）811—5531

スプリンター・スターレットの
トヨタオートヤサカ株式会社
本社　京都市中京区壬生仙念町5番地
TEL（075）802—0151(大代表)

全道一を誇るスポーツ用品専門店
（株）スポーツハウス
釧路営業所　釧路市北大通10丁目
（23）—1526

松の寿司
植田和子
（清水市立商業高等学校ハンドボール部3年生）
清水市銀座1番3号　TEL66—3063

塩山病院
山梨県塩山市上於曽

株式会社　加藤組
代表取締役　加藤憲
函館市千才町3—2

鳥のデパート<鳥料理>
たぐち会館
田口欽一（旧姓　湯山）
（昭45日本体育大学ハンドボール部卒業）
静岡県清水市銀座12番12号

ソニービデオとトリニトロンカラーの専門店
寿電化サービス
代表者　川口攻
山梨県甲府市宝2丁目27—14
電話　0552—26—0319

技術と経験で奉仕する店
望月スポーツ
釧路市錦町5—1電(23)—7255
支店くしろデパートスポーツコーナー　電(24—4721

たのしく学ぶ　明るい学園
学校法人　花園学園
梅花幼稚園
静岡県清水市南岡町3—8

地場産業に貢献する
奥山不動産
代表取締役　奥山仙治郎
甲府市丸の内2丁目14—3
電話(0552)24—3265・5698

株式会社　松本組
取締役社長　松本演之
本社　函館市吉川町4番30号
札幌支店　札幌市北区37条西4丁目安田ビル5F

茂津目精肉店
茂津目勝仁
（静岡県清水商高男子ハンドボール部父母の会顧問）
静岡県清水市桜ケ丘54　TEL0543—52—1951

上田茂行

山梨県ハンドボール協会
会長　植野保

山梨県ハンドボール協会
副会長　天川正次

日本リーグ　初代委員長に徳永陸繁氏決まる

注目の第1回日本リーグ運営委員会が、6月13日午前10時から東京渋谷の岸記念体育会館で開かれ、初代運営委員長に徳永陸繁氏（日本協会副会長）を決めたほか、主要人事が確定、日本リーグは、9月4日開幕を目指して本格的な活動に入った。

初の運営委員会とあって15委員4準委員が出席（ほかに委任状15通）。嶋田日本協会総務担当常務理事によるこれまでの経過説明のあと、ただちに議事へ入った。

日本リーグの消長を握るとみられる運営委員長の選出(互選)は、日本協会派遣委員のなかから推すムードが強く、現日本協会副会長で、永く日本ハンドボール界の要職にあり、球界の表裏を知りつくした徳永陸繁氏を満場一致で推せん、ここに、史上画期的な事業といわれる日本リーグ初代リーダーの誕生をみた。徳永氏は全国高体連ハンドボール部長との二枚看板になる。58才、日体出。


徳永陸繁委員長

つづいて副委員長の選任に入り嶋田新太郎、山田稔、安藤純光の3氏を決めた。

いずれも日本協会常務理事で、特に山田氏は、日本リーグ発足の導火役ともなった全日本実連理事長。手腕が期待される。

嶋田氏は総務系、山田氏は財政安藤氏は技術系を統括する。

これにともなって、各運営委員の担務が、別表のように確定された。この日欠席した委員のポストは後日発表の予定。

7月15日に日程発表

注目の第1回リーグ（男女各8チーム、1回総当り全56試合）については、9月4日の開幕で9月内に終結するという原案を確認したにとどまり、7月15日に開く日程委員会で一気に全スケジュールを発表することとなった。

また、男女の第8チーム決定戦は、男子は予定どおり6月26日呉市体育館で日新製鋼呉（広島）、トヨタ車体（愛知）、神戸製鋼（兵庫）の3チームのリーグ戦によって行われるが女子の大和銀行(大阪)×ジャスコ(三重)戦は、ジャスコの主力選手がオリンピックに関係するため8月中旬（大阪）まで延ばされた。

事業予算については、準備委員会〜解散〜が計上した総額460万円の収支案を承認、この結果、第1回リーグの各チーム運営分担金（参加料）は20万円と決まった。

このほか、運営委員会規程外の機関として「オーナー会議」設置が申し合わされた。

また「入れ替え戦」の細目については、日本協会の意向をただしたうえで具体化することになった運営委員会内に特設される「特別事業担当委員」は富田悟（ビクター）、早川一雄（ブラザー）、鈴木一雄(三陽)、塩田正弘(三景)、原田進（大同）の5氏を決めた。

次回運営委員会の日程は未定。

徳永委員長の話　取り巻いている問題が多いのも事実だが、運営委員の意欲的な姿勢で、必ず解決できると思う。

他競技に比べても、かなりハンデのあるスタートだが焦らず、さすがハンドボールといわれるように、チーム、選手には模範的な行動を望むつもりである。

それが日本リーグの支持される最善策であろう。

日本リーグ運営委員会(決定分)

▽委員長	徳永　陸繁	（日本協会）
▽副委員長(総務担当)	嶋田新太郎	（日本協会）
(財政担当)	山田　稔	（日本協会）
(技術担当)	安藤　純光	（日本協会）
▽総務委員会（○印主任）		
・総務委員	各チーム選出委員1名づつ	
・日程作成委員	各チーム選出委員1名づつ	
・総合プログラム編集委員	○泉　正明	（日本協会）
	谷口　俊郎	（大崎電気）
・広報・渉外委員	○崎山九二夫	（立石電機）
	東　一敏	（大崎電気）
	池田　鉄哉	（ビクター）
	村中　明朗	（湧永薬品）
	田口　侑義	（ムネカタ）
・「入替戦」委員	○柴田　義彦	（ブラザー）
	島崎　政治	（イーグルス）
	村谷　卓保	（東京重機）
・会計委員	（兼）泉　正明	
▽技術委員会		
・優秀選手選考委員	井上　素行	（大崎電気）
	西村　亮治	（大同製鋼）
	江名　英彦	（三　景）
	井　薫	（立石電機）
・公式記録・登録委員	伊藤　宏幸	（日立栃木）
	松井　正敏	（湧永薬品）
	籏野　俊彦	（大崎電気）
	中田　隆一	（本田技研）
	未定	（男子第8チーム）
・審判委員	田中　秀和	（イーグルス）
	近藤　金博	（東京重機）
	〜交渉中〜	

北国銀行が初優勝

実連会長杯女子大会

第4回全日本実連会長杯女子実業団大会は6月4、5、6の3日間、岐阜・大垣スポーツセンターに7チームが参加して行われた。

予選リーグ2組の上位2者による決勝リーグには2連勝を狙う豊田工機(愛知)をはじめ新進・北国銀行(石川)、大和銀行(大阪)、地元三洋電機（岐阜）が勝ち進み、昨年度全日本高校選手権優勝の小松市女高(石川)OGを加えた北国銀行が勝負強さを発揮して初優勝を遂げた。

（詳報次号）

海上下総が2連勝

全日本自衛隊選手権

第8回全日本自衛隊選手権は6月9日から13日まで、東京駒沢体育館に23チームを集めて行われた。

上位には予想どおり下総（海・千葉）、勝田（陸・茨城）、鹿屋（海・鹿児島）のトップスリーが今年も実力を示して進出、健斗の久里浜（陸・神奈川）がこれにからんだが、決勝は2年連続下総×勝田の顔合わせとなり、下総が後半地力を示して快勝、2年連続3度目の優勝を飾った。少年の部（第2回）は勝田施設生徒(茨城)、女子（第6回）は三宿中央病院高等看護学院（東京）が勝った。

（詳報次号）

日本側 男子1勝、女子は一矢も報えず

強味示した韓国学生、忠州工専（女子）

10周年を迎えた日韓学生交流は第1回（昭43）以来、久々に韓国学生選抜（朴宗南団長ら役員4、選手14）を迎えて6月2日から8日まで全国5都市で5試合を行った。

次代をになう1、2年生7人を加えた韓国は、前評判どおり活発な攻守をみせ、社会人の徳山ク（山口）に引き分けたものの無敗で東上、日本側はかつてない苦しい立ち場におかれたが、最終戦で関東学生選抜が辛くも逆転勝ち、どうにか全敗をまぬがれた。10回の通算成績は日本側の50戦28勝4分18敗（うち11人制6戦6勝）

一方、第5回を数える女子は、4月の韓国学生リーグ優勝校・忠州工専（短大・金容桂監督ら役員2選手9）が来日、エース李相玉を主軸に圧倒的な強さをみせ、日本学生陣は4連敗（ほかに徳山クが1敗）、大きなショックを受けた。

通算成績は、日本側の19戦9勝1分9敗（対社会人戦を除く）

韓国選手団は6月10日午後、羽田から帰国した。

関東が辛くも勝利

第1戦・福岡県学生選抜との試合は6月2日午後6時40分から福岡市民体育館で行われた。

韓国学生選抜 26（14－8、12－7）15 福岡県学生選抜

得	【福岡学生】		【韓国】	得
0	林田（九産大）	GK	李向傑	0
0	中村（福岡教大）	GK		
1	石原口（福岡教大）	FP	李康皓	1
8	金谷（九産大）	FP	張星淳	0
3	満重（九産大）	FP	鄭亨均	11
0	飯尾（福岡教大）	FP	崔炳章	1
1	宮脇（西南学院）	FP	金光洙	4
1	土井（九大）	FP	崔容煥	4
0	原田（福岡教大）	FP	辛炳翼	0
0	藤野（九大）	FP	崔永寿	2
0	椋梨（西南学院）	FP	杜晩均	2
1	大森（九州工大）	FP	洪満宜	1
15	（4）	PT	（10）	26

▽その他の出場者【福】FP坂本（九産大）、高木（九産大）、藤山（九産大）いずれも得0

○……スタートから両チームとも早いテンポで試合を進めたが、その割にゴールに結びつかなかった15分を過ぎて、わずかに韓国が鄭の好リードから押し気味となり17分6－4、福岡も21分同点としたが、そのあとディフェンスが、疲れからか荒くなり、4本のPTを課せられ傷口を拡げてしまった

後半は、体力に劣る福岡がシュートミスをつづけたため、一気の逆速攻をうけ、戻り切れても、韓国の多彩なポストプレーで攻めくずされ15分19－10と差がついた。

終盤になって福岡は金谷の好技で、わずかに点差をつめる場面もあったが、韓国は余祐をのぞかせて振り切った。（日野博・大会審判長）

徳山ク、惜しいドロー

第2戦・徳山ク（山口）との試合は3日午後7時12分から徳山市体育館で行われた。審判＝星井直横瀬正寿、観衆＝約二千三百

韓国学生選抜 20（13－11、7－9）20 徳山ク

得	【徳山ク】		【韓国】	得
0	竹下（中大出）	GK	李向傑	0
0	野村幹（日体大出）	GK		
4	住田（明大出）	FP	鄭亨均	3
1	伊ケ崎（神奈川大出）	FP	金光洙	4
6	明石兄（芝工大出）	FP	崔容煥	5
8	明石弟（芝工大出）	FP	崔永寿	3
0	久保（芝工大出）	FP	崔炳章	0
0	野村和（明大出）	FP	張星淳	0
0	宮崎（中大出）	FP	辛炳翼	0
1	近森（芝工大出）	FP	全延彬	0
0	山村（中大出）	FP	徐順晩	0
0	相本（明大出）	FP	李康皓	0
20	（1）	PT	（3）	20

◇その他の出場者【韓】FP杜晩均＝得4、洪満宜＝得1

○……さぐりあいの10分が過ぎたあと、両チームの動きはにわかに活発となり、徳山クはフォーメーションから、韓国は速攻とPTなどで激しく得点を入れあい27分7－7。このあと徳山クは明石兄弟がそれぞれロングシュートを決めて2点をリードした。

後半、韓国は朴の俊敏なプレーで5分同点（9－9）としたが、徳山も明石弟、住田、近森らの活躍で20分19－13と主導権を握り、そのまま押し切るかとみえた。

しかし、韓国の粘りも相当なもの、15－19の劣勢から一気の反撃をみせ、サイドでの強引な突っこみで二つのPTを得、17－19とし、さらに27分朴が押しこんで1点差に迫った。

徳山は、残り1分20秒明石弟がゴール、今度こそ勝利は固いとみえたが、韓国は29分崔(容)で19－20、さらに徳山のパスミスにつけこんで29分35秒金が同点のシュート、引き分けにもちこんだ。

韓国の学生らしい活気にあふれたプレー、徳山のGK竹下（第6

回世界選手権代表）やベテラン勢の巧技——互いに持ち味を存分に発揮した好試合で、スタンドを埋めた観客を満足させた。（中所和信・大会総務委員長）

韓国、終盤で決める

第3戦・関西学生選抜との試合は、5日午後3時から大阪市中央体育館で行われた。審判＝山本孝男(日)、李峰一(韓)

韓国学生選抜 15（8—8、7—5）13 関西学生選抜

得	【関西学生】		【韓国】	得
0	松　岡(大体大)	GK	李向傑	0
0	清　水(京産大)	GK		
2	西　上(大体大)	FP	鄭亨均	8
4	丸　井(大体大)	FP	金光洙	1
1	能　波(大体大)	FP	崔容煥	1
3	崎　野(大体大)	FP	杜晩均	2
0	西　田(京産大)	FP	張星淳	0
1	西　辻(近　大)	FP	全延彬	0
2	生　駒(京産大)	FP	洪満宜	0
0	辻　村(甲　南)	FP	崔炳章	0
0	木　下(大経大)	FP	徐順晩	0
0	古　川(同志社)	FP	崔永寿	3
13	(2)	PT	(4)	15

◇その他の出場者【韓】FP辛炳翼、李康皓＝いずれも得0、【大】FP浅沼(同志社)、木村(京産大)＝いずれも得0

○……得点のうえでは接戦だったが、内容的にはもう一つ盛りあがらなかった。

韓国に疲れがのぞき、関西が常に冷静にプレーしていたからだろう。

それに両チームともピックアップであったため、細かいコンビネーションがかみあわず、結局は個人プレーに頼らざるを得なかったことも一因である。

戦力的には、まったく互角で、関西は西上、丸井、能波、生駒を中心として、比較的高度なプレーを見せてくれたが、肝心のシュートがバーに当るなどの不運もあって、得点できず、特に前半9分から16分間は1ゴール、この間に序盤につけた4点差を盛り返されてしまった。

一方の韓国は、ナショナルプレイヤー・鄭を要にオーソドックスな展開であったが、関西ディフェンスの動きをよくみてステップ、ジャンプ、ポストを巧みに使い分けた

勝負は後半23分13—12のあと残り7分間にかかったが、韓国がPT二本を決めたのに対し、関西は28分西辻の1点だけにとどまり敗れた（中尾嘉範・関西学連委員長、同志社大4年）

東海、ディフェンスにもろさ

第4戦・東海学生選抜との試合は、6日午後4時から愛知県体育館で行われた。審判＝浅野克彦、奥村方志

韓国学生選抜 19（11—6、8—10）16 東海学生選抜

得	【東海学生】		【韓国】	得
0	木　村(名　城)	GK	李向傑	0
0	川　上(中　京)	GK		
4	村　上(中　京)	FP	李康皓	0
2	楠　田(滋　賀)	FP	張星淳	0
0	西　脇(中　京)	FP	鄭亨均	9
5	高　橋(名　城)	FP	崔炳章	0
1	西　浜(名　城)	FP	金光洙	6
0	谷　元(名　城)	FP	崔容煥	1
0	犬　飼(愛知教大)	FP	辛炳翼	0
0	藤　井(岐阜大)	FP	崔永寿	3
3	鈴木康(名　城)	FP	杜晩均	0
1	安　藤(名　城)	FP	洪満宜	0
16	(0)	PT	(0)	19

○……立ちあがり東海の動きは堅く、オフェンスではパスミス、ディフェンスでは詰めが甘すぎた。

すでに3戦をこなしてきた韓国が、このスキを見逃すハズはなく速攻、ロング、ポストなどで11分7—1と大差がついた。

東海は15分を過ぎてからようやくテンポにのり村上の好技などでゴールをあげたが、守りのデキはいぜん悪く、せっかく5—8と追いあげたあとPTを重ねてとられてしまった。

後半、東海は、五分に戦ったがノーマークシュートをはずすなどあって差は縮らず、逆に韓国に加点を許して23分17—13。

終盤、村上、高橋で2点差まで詰め寄ったもののそこまでだった（川島克之・東海学連審判長）

関東、後半に地力示す

第5戦（最終戦）・関東学生選抜との試合は8日午後5時1分から駒沢体育館で行われた。審判＝安藤純光(日)、李峰一(韓)、観衆＝約一千六百

関東学生選抜 22（9—10、13—10）20 韓国学生選抜

得	【関東学生】		【韓国】	得
0	小　松(中　央)	GK	李向傑	0
0	岡　部(明　治)	GK	林圭夏	0
6	蒲　生(中　央)	FP	金光洙	7
2	泉　(早稲田)	FP	杜晩均	4
4	西　窪(中　央)	FP	鄭亨均	7
4	鈴　木(早稲田)	FP	全延彬	0
1	金　沢(中　央)	FP	崔炳章	1
3	関　(中　央)	FP	崔容煥	1
2	大　西(日　体)	FP	李康皓	0
0	洞ケ瀬(早稲田)	FP	崔永寿	0
0	後　川(日　体)	FP	洪満宜	0
0	勝　地(慶　応)	FP	張星淳	0
22	(5)	PT	(3)	20

○……後半15分からがぜん白熱して盛りあがった。

一転二転した前半のあと、後半も一進一退となり14分16—16。

「行ける」とみた関東は16分鈴木、17分PT、18分大西とたたみかけ19—16。

〝全勝〟を狙う韓国は鄭がマークされて思うように動けなかったが崔(容)、朴らがスピードにあふれた切りこみで粘り、26分にはこの日大当りの金(光)が、すばらしいジャンプショットを決めて19—20と食い下った。

しかし、このあと関東の速攻をつぶした韓国ディフェンスに李審判員はPTを課し、蒲生が決めて21—19、これに気落ちしたのか韓国は40秒後、蒲生のロングを浴びて突きはなされ、29分10秒朴が持ちこんだものの、そこまでだった

終盤は、激戦というにふさわしかったが、前半は個人技の応しゅうだけで迫力に欠けた。特に関東は拙守をつづけて主導権を握れず攻撃も雑で、ほめた試合ぶりではなかった。

韓国では1年生・金(光)の精力的な攻撃が目立ち、関東ではGK小松の手固さが光った。（佐野和夫・国際審判員）

〃〃〃〃〃〃〃〃〃 成長する韓国学生界

◇……日韓交流もはや10年目。この間にオリンピック定着、アジア球界の拡充などあって、日韓両国代表のほとんどは、この交流戦から巣立っている。

兵役のために、社会人球界の伸び悩む韓国にとっては、特に意義の大きい大会のようで、ある役員は、この交流が「最大の行事であり目標」とさえいう。

韓国学生界の成長も目覚ましく早ければ、今秋、懸案の「韓国学

【韓国学生選抜】

- 団　長　朴　宗南
- 総　務　許　亨茂
- 監　督　金　有善
- コーチ　金　　丘

		氏名	所属	身長
GK		李　向傑	(釜山大)	179cm
		林　圭夏	(仁　荷)	186
FP	◯	鄭　亨均	(円　光)	184
	◯	崔　炳章	(円　光)	177
		崔　永寿	(円　光)	174
		杜　晩均	(円　光)	173
		李　康皓	(成均館)	187
		張　星淳	(成均館)	184
		金　光洙	(成均館)	177
		全　延彬	(釜　山)	178
		崔　容煥	(釜　山)	177
		辛　炳翼	(清　州)	175
		洪　満宜	(清　州)	168
		徐　順晩	(仁　荷)	174

生連盟」が発足する見通しだという。

実力的には、相変らず成均館が強いそうで、円光、釜山大が追う形勢。ただ、名門・慶熙(昭49来日)が部員不足で、活動を休止しているというのは淋しいニュースだ。

女子 東海(第4戦)の気力及ばず

女子第1戦・福岡県学生選抜との試合は、6月2日午後5時22分から福岡市民体育館で行われた。

忠州工専 23（9－1、14－2）3 福岡県学生選抜

得	【忠州】		【福岡学生】	得
0	李栄姫	GK	白木(福岡教大)	0
		GK	松丸(福岡大)	0
2	李性淑	FP	足達(福岡教大)	0
6	金福順	FP	永島(福岡教大)	1
1	林礼順	FP	下川(福岡教大)	1
1	李順南	FP	早田(福岡教大)	0
8	李相玉	FP	安田(福岡教大)	0
2	朴炳賢	FP	田中(福岡教大)	0
2	金栄淑	FP	安部(福岡教大)	0
1	呉英愛	FP	大石(九州女大)	1
		FP	黒田(福岡大)	0
		FP	浜田(福岡教大)	0
23(2)		PT		(0) 3

○……忠州は飛行機の遅れで40分前に到着、ウォームアップもできぬままスローオフとなったが、立ちあがりの10分間、福岡を完封したことで余裕がのぞき、エース・李(相)の連続得点を口火に一気に主導権を握った。

後半になると忠州の攻守はいっそう鋭さが増し、福岡はほとんどつけ入るスキがなく、わずかに前半21分、後半15、19分にポイントしただけだった。 (日野 博)

スピードに優る忠州

女子第2戦・徳山ク(山口)との試合は3日午後5時59分から徳山市体育館で行われた。審判＝柳井文治、李峰一

忠州工専 17（10－2、7－5）7 徳山ク

得	【忠州】		【徳山】	得
0	李栄姫	GK	広林	0
		GK	久野	0
7	李相玉	FP	深見	1
3	金福順	FP	川口	2
0	李性淑	FP	赤岸	1
0	林礼順	FP	伊藤	2
0	李順南	FP	松井	0
3	朴炳賢	FP	岩崎	0
4	金栄淑	FP	古木	0
0	呉英愛	FP	花田	0
		FP	高木	1
		FP	前田	0
17(2)		PT		(0) 7

○……先手は忠州がとったが、徳山も切り札・伊藤のゴールで10分2－2、互角のスタートを切った。しかし、そのあとはスピードに優る忠州が、じわじわと徳山ディフェンスを攻めつけ、特に李(相)の強肩から繰り出すスタンディング・シュートの鋭さはすばらしいものがあった。勢いづく忠州は15分すぎに連続6点をあげ、10－2と大量リード。後半、徳山は、相手の得点源・李(相)、金(栄)を徹底的にマークする一方、高木、深見伊藤などでチャンスを活かしたが前半の劣勢をくつがえすには遠く善戦がせいいっぱいだった。

忠州の攻守は、韓国ナンバーワンと云われるにふさわしかったがクラブチームのハンデを負いながら最後まで食い下った徳山の健闘も賞されてよい。 (中所和信)

関西、なすすべなし

女子第3戦・関西学生選抜との試合は5日午後1時40分から大阪市中央体育館で行われた。審判＝望月伸三郎、丸岡一清

忠州工専 18（6－2、12－4）6 関西学生選抜

得	【忠州】		【関西学生】	得
0	李栄姫	GK	滝本(大体大)	0
		GK	六車(武庫川女)	0
8	李相玉	FP	小西(武庫川女)	0
2	李性淑	FP	松本(大体大)	0
0	李順南	FP	佐野(武庫川女)	1
3	金福順	FP	大竹(大体大)	1
1	金栄淑	FP	船橋(大体大)	0
1	朴炳賢	FP	平山(大体大)	0
1	林礼順	FP	榎崎(武庫川女)	2
2	呉英愛	FP	今井(武庫川女)	2
		FP	川崎(成蹊女短)	0
		FP	酒井(大阪教大)	0
18(1)		PT		(2) 6

○……関西の完敗だった。忠州の理詰めの攻防になす術なく、しかも立ち上り2分大竹で先行したものの、全員があがり気味でプレーがつながらずとあっては、李(相)金(福)の再ナショナルプレイヤーを軸に多彩に攻めこむ忠州のペースとされてしまったのも、やむを得なかった。

それにしても忠州は巧い。全員が射つタイミング、廻す呼吸を心得ており、走りまわられただけで関西ディフェンスは崩れた。

関西は、基礎的な体力にも欠けハンドボールの理解度の違いを見せつけられた試合でもあった (中尾嘉範)

【忠州工専来日メンバー】
- 監督　金　容桂
- コーチ　金　明燮

- GK　李　栄姫　167cm
- FP　林　礼順　170
- ○李　相玉　166
- 金　栄淑　164
- ○金　福順　164
- 呉　英愛　161
- 朴　炳賢　160
- 李　順南　160
- 李　性淑　156
- ○印はナショナルプレイヤー

忠州、鮮やかな展開力

女子第4戦・東海学生選抜との試合は6日午後2時30分から愛知県体育館で行われた。審判＝稲石三二(日)、李峰一(韓)

忠州工専 16（7－8、9－7）15 東海学生選抜

○……2年前に大敗している東海としては、雪じょくの好機とあって闘志にあふれたプレーをみせた。

忠州は予想どおりエース・李(相)の力を存分に活かした展開で序盤を制したが、東海もコンビのよくとれた攻撃で対抗、22分6－7から久家で同点、24分30秒鈴木で逆転した。

得	【東海学生】		【忠州】	得
0	森下(中京女)	GK	李栄姫	0
0	佐野(中京)	GK		
1	中根(中京女)	FP	金福順	1
0	窪田(中京女)	FP	李順南	3
2	久家(中京女)	FP	金栄淑	2
1	大森(岐阜大)	FP	朴炳賢	0
2	都築(中京)	FP	李性淑	0
0	古山(中京)	FP	李相玉	10
3	鈴木(愛知教大)	FP	呉英愛	0
3	芦野(中京)	FP	朴礼順	0
0	藤井(愛知教大)	FP		
3	今木(中京)	FP		
15	(3)	PT	(7)	16

後半も大いにもつれ19分14—14の激戦、予断を許さなかったが、忠州は21分PTで貴重なリード、23分金(英)がなだれこんで16—14とした。

東海も残り1分久家が1点を返したが及ばず、忠州の逃げ切りを許した。

惜しくもこれといった選手はいないかわり、全員の気力とプレーが一つにまとまった東海の試合ぶりはみごとだったが、それ以上に忠州の展開力は鮮やかといえた。

李(相)がマークされるとみるやリードマンとなり、ポストへ果敢に投げこんでおいてリターンからのシュート、あるいはポストがもぐりこんでのPT獲得など「頭脳的」だった。（松井利幸・大会競技委員長）

関東、前半で突き放される
李相玉、5試合で45点

女子最終戦・関東学生選抜との試合は、8日午後3時35分から駒沢体育館で行われた。審判＝佐野和夫、岡前義春

忠州工専 24（14—7、10—5）12 関東学生選抜

○……ウイークデーにしてはかなりの観客で、国際試合にふさわしい熱気あふれる場内だった。試合は立ちあがりこそ互角に進んだが、しだいに忠州工専のペースとなっていた。

得	【関東学生】		【忠州】	得
0	鍋田(東女体大)	GK	李栄姫	0
0	堀田(日体)	GK		
1	三沢(東女体大)	FP	李相玉	12
0	岩本(日体)	FP	金福順	4
0	門田(日体)	FP	李順南	4
1	水口(日体)	FP	朴炳賢	1
6	山田(東京学芸)	FP	呉英愛	3
2	藤井(日体)	FP	李性淑	0
1	中田(東女体大)	FP	林礼順	0
0	高野(日女体大)	FP	金栄淑	0
1	西峰(東女体大)	FP		
0	森戸(東京教大)	FP		
12	(1)	PT	(2)	24

ナショナルプレイヤー・李相玉のPTで先取点をあげた韓国は、日本の守備陣の甘さをついてポストプレーを中心に加点、20分早くも9—4。

特に李相玉は前後半を通じて、ポスト、ジャンプと多彩なシュートで、ひときは目をひいた。

また、GK李春雨の堅実な守りは、チームをなおいっそう盛り上げた。

一方、日本は再三のチャンスがありながら、連合軍のための練習不足がコンビネーションが悪くパスミスや、無駄なパスが続出して自滅の感さえあった。

その中で山田が粘りのあるプレーで対抗、一人気を吐いたが韓国の早いつぶしにあって組織攻撃までに持ちこむことができず、そのため日本は単調なシュートが多かった。

韓国はボールを持っていないプレイヤーがいつもよく動き、速攻の時には、金福順がすばらしい出足で決めるなど、巧さ、強さをいかんなく発揮、後半5分13—5と大差がついた。

日本は試合中、二人がけがのため退場するなど、何か力の差というものを感じざるを得なかった。

韓国のスピード豊かな、しかもテクニカルなプレーは、将来の韓国の力を占うに十分だった。

日本学生勢の来年の奮起を期待したいと思う。（青木敬子・本誌編集委員）

全敗の女子学生界
ショックかくせず

◇……最後の砦とみられた関東学生も、前半であっさりカタをつけられてしまい、まさかと思った4連敗(ほかに徳山クの1敗)。さすがに関係者は、ショックをうけたようだ。

しかも、誰に聞いても「勝負にならない」「センスに差がありすぎる」「個人技がちがう」と完敗の弁ばかり。つけこむスキのなかったことを物語る。

◇……女子学生界は、いちぢ「高校よりもろい」などと酷評されたが、最近は各地とも加盟校が増え活気がでてきた矢先である。

ある学生委員は「これでまた女子学生の評判が落ちる」と苦い顔をしたが、今度ばかりは、学生界にとどまらず、ナショナルレベルにも波紋が及びそう。

◇……韓国女子は、オイルショック以来、実業団がほとんど無活動で、中心は学生と高校。

早くも来年度には世界選手権の予選が予定されているだけに、忠州工専の見せた強さは無視できないのである。

同行の許亨茂・韓国協会理事によれば「忠州と互角の韓星女子大には5人のナショナルプレイヤーがいる」というし、若い韓国の伸びは無気味だ。

◇……最終戦をみた全日本女子・井薫監督は「日本の学生のレベルは低いので、今回の敗戦だけでナショナルがどうということにはならない。

ただ、忠州の全勝で、韓国女子界のムードは高まると思う。とりあえずは、8月の日韓高校(東京)を注目したい」と余裕をのぞかせているが、日本協会・荒川清美理事長は、試合後、かなりの時間、関係者と額を寄せあっている。

話の内容は明きらかだ。

◇……それにしても女子学生界は実業団に追いつけという従来の課題をはたせぬうちに、韓国に〃借り〃を返すという、やっかいな宿題をかかえこんでしまったものである。（杉山）

来年1月に世界学生

ポーランド協会は、このほど第7回世界学生選手権（男子）を、来年1月6日から13日までワルシャワなどで開くと発表した。

日本体協を通じ日本協会にも伝えられたが、全日本学連は、前回（昭50、ルーマニア）に引きつづき、前向きに検討するとしている。

8月21、23日に日韓高校

日本体協はこのほど、恒例の日韓高校交流（日韓高校スポーツ交歓競技会）を、今夏8月21日から23日まで、東京、千葉で8競技にわたって行うことに決めた。

ハンドボールは、東京佼成学園高校体育館に韓国の男女チャンピオンを招き、21日東京都代表、23日全日本高校選手権優勝校が対戦する。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

建築設計施工
県知事許可（般—48）第1849号
協　和　建　築
代表者　木 村 正 信
奈良市下山町22の1　TEL0742—24 {4716(自宅) 5259(工場)}

サイエンスの勝利＝抜群の機能性
ADDAX BEST QUALITY SPORTS GOODS
日本ゴム株式会社
足利アサヒゴム販売株式会社
栃木県足利市弥生町15番地　0284—41—2167

ブリヂストンタイヤ
那須工場・栃木工場

奈良県ハンドボール協会長
堀　内　俊　夫
〒632　天理市嘉幡町
TEL　07436—4—0132

各種スポーツ用品
田原本スポーツ
奈良県磯城郡田原本町
TEL　07443 ② 2253

各種精密プレス加工，金型，省力機器，設計製作
清国産業株式会社
代表取締役　清 水 国 善
本社・工場　栃木県足利市小俣町西大門2690-1
TEL 0284 (62) 0513 (大代)

住み良いくらし　住みよい環境
（株）**都　商　事** 不動産部
（代）　小 野 瀬 都 男
〒329-06 栃木県河内郡上三川町大字上郷1893
TEL　028556—5525（代）

杏林会 **金　岡　病　院**
堺市中長尾町2丁82
TEL　0722—52—2641（代）

スポーツ用具
ノダ運動具店
奈良市三条通り　TEL奈良（22）5662

株式会社 **日　進　商　会**
横浜市港北区樽町701番地
電話　045—541—7881（代）

宝　タ　ク　シ　ー
無線配車センター　052—682—6000番
ムセンバン
宝交通株式会社
名古屋市熱田区伝馬町4-13

医薬品卸売業
株式会社 **井　上　誠　昌　堂**
代表取締役社長　井 上 塩 六
本社・高岡店　高岡市笹川2600　TEL31-0061(代)

アデダス，プーマ特約店
ヤバネスポーツ
榊 原 康 弘
（第11回倉敷インター・ハイ第3位　清水商高選手）
清水市大寺2-1-9　TEL 0543-66-1603

クラウン・カリーナ
豊中トヨペット株式会社
代表取締役　小 西 清 海
豊中市稲津町2-4　TEL 06-863-6501（代）

株式会社 **高　田　組**
代表取締役　高 田 義 一
（富山県ハンドボール協会長）
富山市宝町1の1

美津濃スポーツ特約店
みなみスポーツ
東海市富木島町伏見1丁目
TEL (0560) 64—5600

新潟県ハンドボール協会
柏崎市栄町5-16・柏崎工業高校
TEL　02572—2—5178・5179

石打シーハイル・ロッヂ
～夏は合宿　冬はスキー～
・緑に包まれた石打へ，特急で2時間15分
・駅・グランドまで車にて送迎
・1泊2食付2,500円，団体20名以上はご相談に応じます
・70名収容，冬期シーズンは1泊2食付3,000円
新潟県南魚沼郡塩沢町関山862の2.　02578 ③ 3229

北大、10連勝を飾る

北海道学生春季リーグ戦は5月1、2、3日の3日間、北海道教大旭川分校体育館に男子8、女子2校が参加して行われ、男子は北大が10シーズン連続優勝、女子は教大釧路が勝った。

男子は、4校づつ2組の予選リーグのあと、ベストフォアによって決勝リーグが争われた。

シーズンごとに力をあげている室蘭工大が、常勝北大にどう挑むか注目されたが、教大旭川戦をとりこぼし、せっかく北大戦を互角に戦いながら、2位にとどまった。

北大は、教大旭川、北見工大など有力チームを巧みな試合運びで退け、いぜん実力ナンバー・ワンであることを示した。新加盟の北海学園は7位。

▽男子予選リーグA組

室蘭工大 19―8 北見工大
釧路教大 25―18 北海学園
室蘭工大 32―10 北海学園
北見工大 30―21 釧路教大
室蘭工大 24―19 釧路教大
北見工大 35―9 北海学園

【順位】①室蘭工大②北見工大③釧路教大④北海学園

▽同B組

北　大 35―5 小樽商大
旭川教大 28―10 北海道工大
北　大 14―8 旭川教大
小樽商大 31―9 北海道工大
旭川教大 23―13 小樽商大
北　大 31―9 北海道工大

【順位】①北大②旭川教大③小樽商大④北海道工大

▽同5～8位決定リーグ

釧路教大 33（18―10 15―11）21 北海道工大
小樽商大 16（8―5 8―5）10 北海学園
北海学園 20（12―8 8―7）15 北海道工大
釧路教大 27（18―8 9―11）19 小樽商大

釧路教大×北海学園、小樽商大×北海道工大戦は予選リーグの記録を適用

【順位】⑤釧路教大⑥小樽商大⑦北海学園⑧北海道工大

▽同決勝リーグ

室蘭工大 19（10―2 9―6）8 北見工大
北　大 14（9―5 5―3）8 旭川教大
＝以上、予選リーグ記録を適用
旭川教大 10（4―4 6―5）9 室蘭工大
北　大 21（11―6 10―7）13 北見工大
北見工大 22（11―11 11―8）19 旭川教大
北　大 9（3―3 6―6）9 室蘭工大
引き分け

【順位】①北大2勝1分②室蘭工大1勝1分1敗③旭川教大1勝2敗（得失点差マイナス8）④北見工大1勝2敗（マイナス16）

女子は教大釧路勝つ

▽女子

釧路教大 8（4―4 4―1）5 旭川教大
釧路教大 14（7―0 7―4）4 旭川教大

IC道予選は7月　北海道学連は今秋の第19回全日本学生選手権（名古屋）北海道代表決定戦を7月2日から4日まで小樽市総合体育館で開くことに決めた。

東北大、東北学院に逆転勝ち

東北学生春季リーグ戦は5月7、8、9の3日間、東北工大体育館に9校が集って行われ、東北大が優勝。

参加9校を3校づつ3組に分けた予選リーグは順当な結果となり決勝リーグの激戦が期待されたが東北大が、最終戦で前年度春秋優勝校の東北学院に逆転勝ち、久々のタイトル獲得となった。1位の東北大と2位の東北学院が全日本学生選手権東北代表となる。

▽予選リーグA組

東北学院 34―7 東北学院(工)
山形大 11(分)11 東北学院(工)
東北学院 25―9 山形大

▽同B組

仙台大 33―11 福島大
福島大 17―10 東北工大
仙台大 16―12 東北工大

▽同C組

東北大 19―6 岩手大
岩手大 17―6 宮城教大
東北大 21―9 宮城教大

▽7～9位決定リーグ

東北工大 14(分)14 宮城教大
東北工大 17―16 東北学院(工)
東北学院(工) 14―12 宮城教大

【順位】⑦東北工大⑧東北学院工学部⑨宮城教大

▽4～6位決定リーグ

福島大 16―13 岩手大
福島大 15―12 山形大
岩手大 17―10 山形大

【順位】④福島大⑤岩手大⑥山形大

▽決勝リーグ

東北大 18（9―8 9―2）10 仙台大
東北学院 26（12―7 14―6）13 仙台大
東北大 15（10―7 5―7）14 東北学院

【順位】①東北大②東北学院③仙台大



中央、初の3連覇遂ぐ

他校との差大きく開く

初の6部制採用にふみ切った関東学生男子春季リーグ戦は、4月24日から5月22日まで駒沢屋内球技場、中大球技場、同第二球技場などで6部52校全176試合を消化した。

1部は、中大がオリンピック選手・蒲生を主軸に圧倒的な強みを示し、初の3シーズン連続7度目の優勝を飾った。1部(8校)は、有力とみられた日体が、東京教大戦（第2日）でつまづき、法政も中央に押しまくられてよいところがなく、中央×早稲田（第6日）が〝優勝戦〟。波にのる中央は、立ちあがりからすばらしい攻撃で早稲田守備陣を崩し、15分9―1とあっさり勝負を決めた。

中央は、日体戦(第7日)も簡単にモノにして、無敵の印象を強めた。

上位校では早稲田のまとまりが目立ち、法政は卒業生の穴が埋まり切らぬままだった。

日体は今季も波にのれず3敗。大器の呼声が高い泉（岩国工、190cm）長野（久留米工、189cm）両新人のうちで泉は負傷でデビューが遅れた。

B級では東京教大の復調ぶりがいい。結果的には、中央にいちばん善戦したのは東京教大である。秋には18季ぶりのA級入りも望めよう。

慶応も攻撃力は一流で、守りに力がつけば手強い存在となる。

明治、芝浦は持ち駒も少なく精いっぱい。そのなかで明治GK岡部、芝浦FP舛屋の奮戦が注目された。

2部(8校)は、日大、順天堂が、他を引きはなし、日大が7度目（2シーズン連続）の優勝、3部（8校）は初めて3部に昇格した専修が危気なく全勝して首位、4部(8校)は関東学院が最終日を待たず4度目の優勝、5部(8校)は東洋が得失点差で千葉商大をかわし初優勝、新設の6部は12校が6校づつ2組の予選リーグのあと、各組同位者が対戦、大東文化が独協の食い下りをふり切って初優勝を飾った。

得点王は、1部が舛屋博司（芝浦工大、佐世保北高出）64点、2部が田中秀美(国士舘、川口工出)50点、3部が姫野弘蔵（専修、大分東高出）40点、4部が星見ルイ(武蔵、杉並高出)43点、5部が中村政広（千葉商大、塩山高出）71点、6部が信田政宏（東京農工大生田高出）36点だった。田中、中村は2度目。

なお、入替戦で名門芝工大が日大に敗れ、48年秋、49年春についでの2部落ちとなってしまった。

2位に早稲田、日体3位

▽男子1部

中央	21	13―7	8―10	17	東京教大
日体	35	18―11	17―6	17	芝浦工大
早稲田	28	12―12	16―6	18	慶応
法政	19	10―3	9―7	10	明治
早稲田	19	6―7	13―7	14	明治
東京教大	21	12―12	9―5	17	日体
中央	40	22―9	18―9	15	芝浦工大
法政	15	5―7	10―6	13	慶応
中央	22	11―8	11―9	17	慶応
早稲田	24	13―6	11―9	15	東京教大
法政	34	17―5	17―4	9	芝浦工大
日体	23	10―8	13―8	16	明治
早稲田	36	21―6	15―5	11	芝浦工大
中央	26	12―3	14―4	7	明治
法政	16	8―7	8―8	15	東京教大
日体	24	16―9	8―10	19	慶応
慶応	29	15―7	14―4	11	芝浦工大
東京教大	19	10―8	9―4	12	明治
早稲田	20	8―12	12―5	17	日体
中央	31	17―4	14―5	9	法政
慶応	19	12―9	7―7	16	東京教大

★ベストセブン
- ・GK 小松伊佐夫(中央)初
- ・FP 蒲生　晴明(中央)⑤
- 西窪　勝広(中央)②
- 関　健三(中央)初
- 鈴木　健文(早大)初
- 泉　喜久男(早大)初
- 大西　和雄(日体)初

得	【日体】		【早大】	得
0	釜谷	GK	安田	0
0	姿	GK	富沢	0
6	後川	FP	鈴木	4
3	半田	FP	泉	3
1	原田	FP	洞ケ瀬	6
0	勝本	FP	武井	5
4	大西	FP	北里	2
2	三谷	FP	石川	0
1	越石	FP	吉見	0
0	池之上	FP	横山	0
0	千野	FP	筏	0
0	長野	FP	中村	0
17	(0)	PT	(2)	20

得	【法政】		【中央】	得
0	植原	GK	小松	0
0	塚本	GK	板橋	0
1	橋本	FP	蒲生	11
0	辻	FP	金沢	3
0	庄司	FP	西窪	5
0	小山	FP	関	7
2	中野	FP	坪子	1
2	角本	FP	中村	0
4	水元	FP	長野	4
0	田尻	FP	佐藤	0
0	乃村	FP	大久保	0
0	吉田	FP	大°林	0
9	(1)	PT	(3)	31

教大 16（4）PT（4）19 慶応

得	【教大】		【慶応】	得
0	上原	GK	加藤	0
0	須波	GK		
1	中村	FP	西村	3
1	川原	FP	浅野	2
0	佐藤	FP	勝地	8
6	浜田	FP	草皆	3
0	清水	FP	保坂	2
2	小西	FP	野本	1
3	若田	FP	常川	0
0	秀永	FP	山本	0
0	堀越	FP	大村	0
3	白井	FP	新谷	0
16（4）		PT		（4）19

日体 25（11—9、14—10）19 法政

明治 23（13—8、10—8）16 芝浦工大

得	【明治】		【芝浦】	得
0	岡部	GK	栗林	0
9	松本勇	FP	舛屋	12
5	加納	FP	伊集院	1
4	江幡	FP	千葉	1
2	辻	FP	三島	0
0	鈴木	FP	岩佐	1
0	松本茂	FP	木戸	1
0	谷	FP	鹿島	0
3	小倉	FP	島根	0
23（2）		PT		（0）16

関東学生成績表

【1 部】	中	早	日	法	教	慶	明	芝	P
①中央	…	○	○	○	○	○	○	○	14
②早稲田	●	…	○	○	○	○	○	○	12
③日体	●	●	…	○	●	○	○	○	8
③法政	●	●	●	…	○	○	○	○	8
⑤東教大	●	●	○	●	…	●	○	○	6
⑤慶応	●	●	●	●	○	…	○	○	6
⑦明治	●	●	●	●	●	●	…	○	2
⑧芝工大	●	●	●	●	●	●	●	…	0

【2 部順位】①日大 7 戦全勝②順天堂 6 勝 1 敗③国士館 5 勝 2 敗④東京学芸大 4 勝 3 敗⑤青山学院・明星 2 勝 5 敗⑦防衛大 1 勝 6 敗（マイナス52）⑧駒沢 1 勝 6 敗（マイナス54）

中央 27（11—10、16—3）13 早稲田

得	【中央】		【早大】	得
0	小松	GK	安田	0
0	板横	GK	富沢	0
10	蒲生	FP	鈴木	2
5	関	FP	泉	2
0	中村	FP	洞ケ瀬	5
2	金沢	FP	武井	0
0	大林	FP	北里	2
4	西窪	FP	石川	0
3	坪子	FP	吉見	2
0	佐藤	FP	横山	0
3	長野	FP	筏	0
0	大久保	FP	中村	0
27（2）		PT		（3）13

東京教大 34（18—6、16—11）17 芝浦工大

慶応 18（11—6、7—5）11 明治

早稲田 25（13—7、12—7）14 法政

中央 35（18—9、17—8）17 日体

得	【中央】		【日体】	得
0	小松	GK	釜谷	0
0	板橋	GK	姿	0
11	蒲生	FP	半田	1
7	関	FP	大西	2
2	金沢	FP	後川	5
9	西窪	FP	原田	1
2	長野	FP	勝本雅	0
2	坪子	FP	三谷	6
0	佐藤	FP	長野	0
0	大久保	FP	越石	2
0	中村	FP	勝本章	0
2	大林	FP	千野	0
35（3）		PT		（1）17

日大、順天堂制し優勝

▽同2部

明星 16（7—7、9—5）12 駒沢

東京学芸大 21（12—12、9—4）16 青山学院

日大 20（10—2、10—2）4 防大

東京学芸大 16（10—4、6—3）7 防大

順天堂 20（13—10、7—6）16 明星

日大 19（11—3、8—11）14 青山学院

駒沢 14（9—9、5—4）13 青山学院

日大 29（16—5、13—6）11 明星

国士館 18（6—7、12—1）8 防大

順天堂 21（16—6、5—2）8 防大

東京学芸大 17（10—4、7—7）11 明星

日大 19（9—8、10—4）12 国士館

順天堂 23（10—10、13—9）19 青山学院

国士館 17（10—3、7—12）15 東京学芸大

防大 21（11—8、10—4）12 駒沢

明星 18（11—9、7—7）16 防大

順天堂 19（12—9、7—6）15 国士館

東京学芸大 24（15—7、9—8）15 駒沢

青山学院 25（14—7、11—11）18 明星

国士館 27（13—5、14—5）10 駒沢

日大 19（8—10、11—3）13 順天堂

得	【日大】		【順天】	得
0	高林	GK	橋本	0
0	大畑	GK	渡辺	0
5	大塚	FP	松本	0
1	新井田	FP	八重盛	4
5	桜井	FP	泉	3
0	山本	FP	小越	0
0	山口	FP	田村	3
5	今井	FP	前嶋	0
0	前島	FP	工藤	0
0	堂尻	FP	宮崎	1
3	仲田	FP	北村	0
0	山口	FP	岩尾	2
19（2）		PT		（3）13

国士館 26（15—7、11—9）16 青山学院

順天堂 18（7—9、11—6）15 東京学芸大

日大 25（14—5、11—4）9 駒沢

青山学院 23（13—8、10—5）13 防大

国士館 26（14—7、12—6）13 明室

順天堂 17（7—9、10—7）16 駒沢

日大 23（16—3、7—7）10 東京学芸大

専修が7戦全勝飾る

▽同3部

東海 25—4 成蹊

武蔵工大 17—16 茨城大

専修 23—9 千葉工大

立教 8—7 東大

東大 9—7 千葉工大

茨城大 21—8 成蹊

東海 19—15 武蔵工大

専修 18—10 立教

茨城大 17—9 千葉工大

東海 16—11 立教

専修 25—4 成蹊

東大 12—11 武蔵工大

立教 19—18 千葉工大

専修 14—11 東大

茨城大 14—11 東海

武蔵工大 14—13 成蹊

立教 21—3 成蹊

茨城大 11—9 東大

武蔵工大 11（分）11 千葉工大

専修 14—10 東海

茨城大 11―8 立教
専修 20―10 武蔵工大
東大 13―2 成蹊
東海 16―10 千葉工大
立教 14―12 武蔵工大
専修 16―12 茨城大
千葉工大 22―2 成蹊
東海 11―6 東大

【順位】①専修7戦全勝②東海5勝2敗(得失点差34)③茨城大5勝2敗(24)④立教4勝3敗⑤東大3勝4敗⑥武蔵工大2勝1分4敗⑦千葉工大1勝1分5敗⑧成蹊7敗

関東学院、圧倒勝ち

▽同4部
関東学院 22―11 千葉大
横浜商大 15(分)15 武蔵
日本工大 13―12 東京工大
上智 9―7 東京経大
千葉大 11―7 東京経大
横浜商大 15―14 日本工大
東京工大 16―13 武蔵
関東学院 20―8 上智
横浜商大 18―14 東京工大
関東学院 22―5 東京経大
武蔵 23―18 日本工大
千葉大 9―8 上智
日本工大 20―12 上智
千葉大 15―13 武蔵
東京工大 17―10 東京経大
関東学院 25―9 横浜商大
東京工大 22―11 千葉大
武蔵 22―9 東京経大
横浜商大 13―11 上智
関東学院 19―9 日本工大
千葉大 22―8 日本工大
上智 12―8 武蔵
横浜商大 20―4 東京経大
関東学院 27―14 東京工大
上智 19―11 東京工大
横浜商大 21―11 千葉大
東京経大 16―14 日本工大
関東学院 18―8 武蔵

【順位】①関東学院7戦全勝②横浜商大5勝1分1敗③千葉大4勝3敗④上智・東京工大3勝4敗⑥武蔵2勝1分4敗⑦日本工業大2勝5敗⑧東京経大1勝6敗

東洋、千葉商大に得失点差

▽同5部
横浜市大 20―16 明治学院
一橋 15―10 埼玉大
千葉商大 22―16 東洋
東京理科大 25―12 都留文化大
一橋 21―12 東京理科大
東洋 32―8 都留文化大
横浜市大 21―12 埼玉大
千葉商大 28―8 明治学院
一橋 不戦勝 都留文化大
横浜市大 17―15 千葉商大
東洋 22―10 東京理科大
埼玉大 18―16 明治学院
埼玉大 9―7 東京理科大
東洋 27―20 明治学院
一橋 17(分)17 横浜市大
千葉商大 28―13 都留文化大
横浜市大 15―11 東京理科大
明治学院 23―12 都留文化大
東洋 24―17 一橋
千葉大 22―14 埼玉大
千葉商大 20―13 一橋
横浜市大 19―12 都留文化大
東京理科大 16―14 明治学院
東洋 31―6 埼玉大
埼玉大 20―10 都留文化大
一橋 24―19 明治学院
千葉大 27―9 東京理科大
東洋 19―14 横浜市大

【順位】①東洋6勝1敗(得失点差74)②千葉商大6勝1敗(72)③横浜市大5勝1分1敗④一橋4勝1分2敗⑤埼玉大3勝4敗⑥東京理科大2勝5敗⑦明治学院1勝6敗⑧都留文化大7敗

初の6部は大東文化

▽同6部A組
東京農工大 16―15 神奈川大
大東文化 不戦勝 東邦
都立大 13―8 東京農工大
大東文化 15―13 亜細亜
亜細亜 13―11 東京農工大
大東文化 12―11 都立大
神奈川大 不戦勝 東邦
大東文化 16―10 神奈川大
都立大 不戦勝 東邦
神奈川大 13(分)13 亜細亜
大東文化 21―8 東京農工大
都立大 20―15 神奈川大
都立大 14―10 亜細亜
亜細亜 不戦勝 東邦
東京農工大 不戦勝 東邦

【順位】①大東文化②都立大③亜細亜④東京農工大⑤神奈川大⑥東邦

▽同B組
独協 14―10 横浜国立大
和光 8―5 東京写真大
独協 13―7 東京写真大
東京写真大 20―7 東京医歯大
山梨大 21―9 東京医歯大
横浜国立大 13―12 東京写真大
横浜国立大 23―10 和光
独協 29―11 東京医歯大
横浜国立大 17―13 山梨大
和光 25―14 東京医歯大
山梨大 18―12 和光
横浜国立大 不戦勝 東京医歯大
独協 16―6 山梨大
東京写真大 不戦勝 山梨大
独協 17―14 和光

【順位】①独協②横浜国立大③東京写真大④和光⑤山梨大⑥東京医科歯科大

▽同11・12位決定戦
東京医歯大 不戦勝 東邦
▽同9・10位決定戦
神奈川大 不戦勝 山梨大
▽同7・8位決定戦
東京農工大 25―18 和光
▽同5・6位決定数
亜細亜 17―7 東京写真大
▽同3・4位決定戦
都立大 14―10 横浜国立大
▽同1・2位決定戦
大東文化 20―14 独協

【最終順位】①大東文化②独協③都立大④横浜国立大⑤亜細亜⑥東京写真大⑦東京農工大⑧和光⑨神奈川大⑩山梨大⑪東京医科歯科大⑫東邦

▼各部入れ替え戦（6月1日、駒沢体育館）

▽5～6部
明治学院(5部⑦) 18―16 独協(6部②)
大東文化(6部①) 18―15 都留文化(5部⑧)

▽4～5部
日本工大(4部⑦) 14―12 千葉商大(5部②)
東洋(5部①) 16―11 東京経大(4部⑧)

▽3～4部
横浜商大(4部②) 17―12 千葉工大(3部⑦)
関東学院(4部①) 23―4 成蹊(3部⑧)

▽2～3部
専修(3部①) 16―15 駒沢(2部⑧)
東海(3部②) 13―11 防衛大(2部⑦)

▽1～2部
明治(1部⑦) 14(5―4、9―9)13 順天堂(2部②)
日大(2部①) 32(16―8、16―7)15 芝浦工大(1部⑧)

早大7連勝

▼第16回早慶明3大学定期戦（6月11日・早大記念会堂）
慶応 17(8―6、9―5)11 明治
早稲田 21(9―13、12―7)20 慶応
早稲田 19(9―6、10―4)10 明治

早稲田は7年連続13度目の優勝

東女体、2シーズン連続

初の2部制をしいた関東学生女子春季リーグ戦は、4月24日から5月22日までの10日間、駒沢体育館などで1部6校が2回戦制、駒沢第二球技場で2部3校が対戦、1部は東京女子体大が2シーズン連続5度目の優勝を飾った。

2部は都留文化大が初優勝

1部は、2回戦制の面白さが存分に発揮され、第6日で東女体大が東京教大に、第8日で日体が東京学芸大に、それぞれ足元をすくわれた。1回戦は、両校とも大勝していたものである。

優勝争いとなった東女体×日体戦は東女体大が先勝、日体は2回戦で27点差をつけなければ逆転できない勘定となり、東女体大は2回戦を落としたものの得失点差で日体を大きく上廻り、連覇を決めた。

有力とみられた東京教大は、緒戦の日体戦に連敗、調子の波へのりそこねた。

2部は、昨秋、準加盟校リーグを争った5校のうち茨城大、学習院女短大が姿をみせず、3校によって進められ、第1戦で引き分けた都留文化、千葉大の両校が、青山学院戦をどう乗り切るかが興味となった。

その結果、都留文化が得失点差でわずかに千葉大をおさえ、初優勝した。

個人最多得点は、1部が山田美代子（東京学芸大、栃木女高出）41点、2部が佐久間晴美（都留文化、八千代高出）8点だった。

山田は4回目の受賞という快記録をたてた。

関東学生女子成績表

	東女	日体	教大	日女	学芸	P	
①東女体	……	○●	○●	○○	○○	12	＋58
②日　体	●○	……	○○	○○	○●	12	＋35
③東教大	●○	●●	……	△○	○○	9	
④日女体	●●	●●	△○	……	△○	4	
⑤学芸大	●●	●○	●●	△●	……	3	

【ベスト7】▽GK 鍋田美佐子（東女体）⑤
▽FP 三沢　一枝（東女体）②
山口　勝子（東女体）初
岩本　徳子（日　体）②
水口　栄子（日　体）初
菊地　幸子（東教大）初
山田美代子（学芸大）③

▽1部

①日体 6（5－2、1－1）3 東京教大
①東女体大 22（10－1、12－3）4 日女体大
②日体 9（5－2、4－5）7 東京教大
②東女体大 14（5－2、9－4）6 日女体大
①日体 15（7－3、8－0）3 日女体大
①東女体大 16（7－3、9－3）6 東京学葉
②東女体大 17（8－4、9－3）7 東京学芸
②日体 17（7－5、10－1）6 日女体大
①日女体大 9（5－5、4－4）9 東京学芸
引き分け

得	【日女】		【学芸】	得
0	山岸	GK	芳賀	0
0	熊谷	GK		
0	塚田	FP	山田	7
0	玉那覇	FP	斉藤順	1
0	千葉	FP	寺井	0
4	高野	FP	松田	0
3	奥富	FP	白井	0
0	佐藤	FP	渡辺	1
0	三沢	FP	斉藤典	0
2	村沢	FP	高橋	0
0	赤嶺	FP		
0	佐々木	FP		
9	(2)	PT	(1)	9

①東女体大 18（9－3、9－5）8 東京教大
②東京教大 9（5－3、4－5）8 東女体大

得	【教大】		【東女】	得
0	坂梨	GK	鍋田	0
0	松永	GK	横田	0
1	吉本	FP	三沢	1
0	土屋	FP	田中	0
2	中島	FP	甲斐	0
2	三井	FP	中田	1
0	坂本	FP	古賀	0
0	清水	FP	西峰	0
1	野村	FP	江波戸	0
1	菊池	FP	山口	2
0	森戸	FP	磯山	3
2	南出	FP	川波	1
9	(1)	PT	(3)	8

（審・田村一宮）

②日女体大 11（4－5、7－4）9 東京学芸
①日体 19（9－2、10－4）6 東京学芸
①日女体大 8（6－3、2－5）8 東京教大
引き分け

②東京教大 15（9－3、6－3）6 日女体大
②東京学芸大 12（6－5、6－4）9 日体
①東女体大 13（7－5、6－3）8 日体

得	【東女】		【日体】	得
0	鍋田	GK	堀田	0
0	横田	GK	大森	0
0	古賀	FP	岩本	2
0	大隈	FP	門田	1
4	中田	FP	中村	1
2	甲斐	FP	水口	3
0	田中	FP	宮崎	0
0	三沢	FP	寺尾	0
1	西峻	FP	藤井	1
5	山口	FP	森	0
1	磯山	FP	坂村	0
0	川波	FP	源	0
13	(1)	PT	(2)	8

（審・池田得丸）

①東京教大 17（8－4、9－7）11 東京学芸
②東京教大 15（9－3、6－6）9 東京学芸
②日体 11（6－6、5－3）9 東女体大

得	【日体】		【東女】	得
0	堀田	GK	鍋田	0
0	大森	GK	横田	0
2	岩本	FP	三沢	2
2	門田	FP	田中	0
2	中村	FP	甲斐	1
2	水口	FP	中田	1
1	宮崎	FP	大隈	0
2	寺尾	FP	古賀	0
0	藤井	FP	西峰	0
0	森	FP	磯山	1
0	源	FP	山口	2
0	坂村	FP	川波	2
11	(0)	PT	(0)	9

▽2部

都留文化 10（6－6、4－4）10 千葉大
引き分け
都留文化 11（3－2、8－3）5 青山学院
千葉大 8（4－1、4－4）5 青山学院

【順位】①都留文化②千葉大③青山学院

大阪体大、9連覇を飾る

寸前で涙のんだ京都産大

関西学生春季リーグは4月17日から5月23日までの7日間、大阪府立大学体育館、大阪体育大学体育館などで行われた。

1部(7校)は、最近4シーズン優勝を争いつづけている大阪体大京都産大の両校が今季も安定した力で勝ち進み、最終日に対決した。

得失点差で圧倒的優位に立つ大阪体大に対して京都産大の〝優勝の条件〟は勝ち点をあげること。京都産大は後半27分25秒、14―15から生駒で同点、28分30秒PTで逆転した時は、初優勝成ったかにみえたが大阪体大はラストチャンスを活かして、残り20秒西上が9シーズン連続優勝を決める同点ゴールに成功した。関学の12シーズン（昭23春～28秋）連続優勝記録にじわじわと迫っている。

3位には近大が初めて食いこんで注目された。

2部(7校)は、京都教大が少ない持ち駒ながら強味を示し、昨秋につづいて全勝優勝、リーグ戦後の入れ替え戦でも勝って、41年加盟以来初の1部入りを決めた。

3部(7校)は、大阪府大、神戸大、大阪市が3校同率となり得失点差に優る大阪府大が初優勝。

4部(5校)は竜谷が2度目、京都外語大を迎えた5部(5校)は奈良教大が2連勝3度目。

得点王は、1部が丸井圭仁（大阪体大、堺工出）38点、2部が酒井護（京都教大、彦根東高出）47点、3部が大島章好（大阪市大、函館ラサール高出）34点、5部が河戸憲次郎（奈良教大）33点と決まり、4部は曽谷直起（竜谷、三田学園出）と片岡幹雄（大阪歯大東大寺学園出）が22点で分けあった。

なお、過去1部優勝25回を誇る名門関学は来季から3部に落ちる。

近大、初の3位進出

▽1部

大阪体大 25（10－6、15－1）7 甲南
京都産大 23（12－7、11－4）11 阪大
近大 14（3－6、11－5）11 大阪経大
京都産大 24（11－8、13－8）16 甲南
大阪体大 31（16－5、15－3）8 阪大
京都産大 18（10－6、8－6）12 同志社
同志社 14（6－8、8－3）11 大阪経大

得	【同大】		【経大】	得
0	西川	GK	木村	0
		GK	山田	0
4	古川	FP	山本	2
2	金田	FP	田安	0
2	浅沼	FP	石田	0
1	滝本	FP	篠原	1
2	堀田	FP	木下	6
3	高杉	FP	大村	1
0	中辻	FP	覚間	1
0	迫村	FP	吉田	0
0	増田	FP	田中	0
0	大杉	FP	加戸	0

（審・高田・新木家）
14（3）PT（1）11

大阪経大 22（14－3、8－8）11 甲南
大阪体大 18（8－6、10－4）10 近大

得	【体大】		【近大】	得
0	松岡	GK	岡本	0
0	青木	GK	佐伯	0
2	西上	FP	夏原	2
4	丸井	FP	浜本	0
4	能波	FP	福原	0
3	北川	FP	芝田	0
3	崎野	FP	島川	3
1	大屋	FP	田辺	3
0	島中	FP	長谷川	0
0	稲田	FP	西辻	0
1	志賀	FP	吉田	2
0	多田	FP	松之内	0

（審・町田・谷口）
18（3）PT（1）10

京都産大 14（8－0、6－9）9 近大

得	【京産】		【近大】	得
0	清水	GK	岡本	0
0	松村	GK	佐伯	0
5	西田	FP	夏原	1
0	浅田	FP	浜本	1
1	生駒	FP	西辻	2
0	北野	FP	福原	0
2	木村	FP	芝田	0
0	日比	FP	長谷川	2
2	藤本	FP	島川	0
3	松井	FP	田辺	3
0	松山	FP	松之内	0
1	田中	FP	吉田	0

（審・川崎・蒲池）
14（3）PT（1）9

同志社 25（13－5、12－2）7 甲南
大阪体大 22（9－3、13－4）7 同志社
京都産大 19（11－8、8－4）12 大阪経大
大阪経大 18（7－5、11－3）8 阪大
近大 21（11－7、10－7）14 阪大
近大 20（11－7、9－4）11 甲南
阪大 17（9－8、8－8）16 同志社
大阪体大 17（8－7、9－2）9 大阪経大
阪大 35（18－6、17－0）6 甲南

得	【阪大】		【甲南】	得
0	森	GK	藤岡	0
		GK	藤田	0
7	秦	FP	古谷	1
15	藤次	FP	辻村	0
5	土肥	FP	野々山	0
3	華井	FP	山本	0
4	小山	FP	松田	0
1	佐藤	FP	阿武	5
0	中井	FP	谷本	0
0	松山	FP	島田	0
0	溝口	FP	原田	0
		FP	久森	0

（審・逢坂・楮谷）
35（4）PT（3）6

近大 12（8－4、4－8）12 同志社
引き分け
大阪体大 16（10－11、6－5）16 京都産大
引き分け

得	【体大】		【京産】	得
0	松岡	GK	清水守	0
0	青木	GK	松村	0
2	西上	FP	西田	1
2	佐々木	FP	浅田	1
8	丸井	FP	生駒	5
2	能波	FP	北野	2
1	崎野	FP	木村	2
0	大屋	FP	日比	0
0	岡村	FP	藤本	3
1	島中	FP	松井	2
0	門司	FP	田中	0
0	志賀	FP	林	0

（審・前田・吉田）
16（0）PT（3）16

京都教大、連続の全勝優勝

▽2部

京都教大 18（11－5、7－3）8 追手門学院
大阪教大 14（7－6、7－7）13 京大

関大 16（11−7, 5−5）12 天理
関学 21（10−8, 11−8）16 大阪教大
京都教大 20（13−5, 7−5）10 天理
関大 26（13−3, 13−4）7 追手門学院
関大 16（7−2, 9−10）12 京大
京都教大 22（12−6, 10−5）11 関学
大阪京大 23（12−5, 11−6）11 追手門学院
関大 16（8−4, 8−6）10 関学
京都教大 19（9−7, 10−3）10 京大
大阪教大 25（13−6, 12−7）13 天理
天理 21（11−5, 10−8）13 京大
京都教大 32（15−7, 17−4）11 大阪教大
追手門学院 20（7−7, 13−4）11 関学
京大 21（13−3, 8−8）11 追手門学院
天理 14（9−4, 5−6）10 関学
京大 15（9−4, 6−4）8 関学
関大 17（7−6, 9−7）13 大阪教大
天理 22（7−6, 15−7）13 追手門学院
京都教大 18（9−8, 9−4）12 関大

【関大】

		得
GK	阪井	0
	伊藤	0
FP	富吉	0
	小牧	3
	藤井	1
	大森	2
	斉藤	3
	大中	0
	西井	1
	西田	2
	島田	0

【京教】

		得
GK	咲本	0
FP	依田	1
	中島	0
	太田	0
	水田	3
	前川	4
	内藤	1
	酒井	9

（審・緒谷　逢坂）

18（0）PT（0）12

大阪府大、激戦ぬけだす
4部竜谷、5部は奈良教大

▽3部
神戸大 18－7 和歌山大
大阪市大 19－16 立命館
大阪府大 16－9 大阪工大
立命館 20－13 桃山学院
神戸大 15－11 大阪工大
大阪府大 26－12 和歌山大
大阪市大 13－9 神戸大
立命館 24－11 和歌山大
大阪府大 17－11 桃山学院
大阪工大 15－13 立命館
神戸大 19－8 桃山学院
桃山学院 17－14 和歌山大
大阪府大 13－11 大阪市大
神戸大 16－9 立命館
大阪市大 21－16 大阪工大
大阪市大 19－14 和歌山大
桃山学院 17－12 大阪工大
大阪府大 15－10 立命館
神戸大 13－12 大阪府大
大阪市大 22－17 桃山学院
大阪工大 20－18 和歌山大

【順位】①大阪府立大5勝1敗（得失点差33）②神戸大5勝1敗(30)③大阪市立大5勝1敗(19)④立命館2勝4敗(4)⑤大阪工業大2勝4敗（マイナス17）⑥桃山学院2勝4敗（マイナス20）⑦和歌山大6敗

▽4部
竜谷 18－6 神戸商船
大阪歯大 14－7 関西外語大
大阪歯大 16－9 大阪薬大
竜谷 20－11 大阪薬大
竜谷 17－8 関西外語大
神戸商船 16－11 大阪歯大
神戸商船 8－4 関西外語大
大阪歯大 19－18 竜谷
大阪薬大 11－6 神戸商船
大阪薬大 15－3 関西外語大

【順位】①竜谷3勝1敗（得失点差29）②大阪歯科大3勝1敗(10)③大阪薬科大2勝2敗(1)④神戸商船2勝2敗（マイナス8）⑤関西外語大4敗

▽5部
大阪外語大 20－13 京都工繊大
姫路工大 24－12 京都外語大
奈良教大 27－10 京都外語大
姫路工大 9－7 大阪外語大
奈良教大 26－16 京都工繊大
姫路工大 21－10 京都工繊大
奈良教大 19－13 大阪外語大
大阪外語大 13－6 京都外語大
京都外語大 19－13 京都工繊大
奈良教大 24－16 姫路工大

【順位】①奈良教大4戦全勝②姫路工業大3勝1敗③大阪外語大2勝2敗④京都外語大（新加盟）1勝3敗⑤京都工芸繊維大4敗

▼各部入れ替え戦（5月29日・西京極体育館）

▽1～2部
阪大（1部⑥）10（5－6, 5－4）10 関大（2部②）
引き分け
（注）阪大は1部に残留
京都教大（2部①）13（6－4, 7－7）11 甲南（1部⑦）

▽2～3部
大阪府大（3部①）17－15 追手門学院（2部⑦）
神戸大（3部②）11－7 関学（2部⑥）

▽3～4部
竜谷（4部①）26－13 和歌山大（3部⑦）
桃山学院（3部⑥）14－8 大阪歯大（4部②）

▽4～5部
関西外語大（4部⑤）11－7 奈良教大（5部①）
神戸商船（4部④）21－11 姫路工大（5部②）

関西学生春季1部

	体	産	近	同	経	阪	甲	P	得失差
①大体大	…	△	○	○	○	○	○	11	72
②京産大	△	…	○	○	○	○	○	11	38
③近　大	●	●	…	△	○	○	○	7	
④同志社	●	●	△	…	○	●	○	5	
⑤大経大	●	●	●	●	…	○	○	4	0
⑥阪　大	●	●	●	○	●	…	○	4	−22
⑦甲　南	●	●	●	●	●	●	…	0	

【2部順位】①京都教大6戦全勝②関大5勝1敗③大阪教大・天理3勝3敗⑤京大2勝4敗⑥関学1勝5敗（得失点差−31）⑦追手門学院1勝5敗（−52）

武庫川女が4度目

大体大かわす

関西女子学生春季リーグは4月18日から5月23日までの7日間、大阪大学体育館などで、新加盟の奈良教大ら7校によって争われた。

予想どおり武庫川女、大阪体大が抜群の力を示し、しかも両校の実力は互角とあって、球趣を盛りあげた。

両者の顔合せは、武庫川女が好調に序盤を制し優位に立って試合を進めた。

しかし、後半2分8－4としたあと、まったく得点を加えることができず、大阪体大の反撃をうけたが、辛くも前半の〝貯金〟にモノをいわせて逃げ切った。2連勝4度目の優勝である。

個人最高得点選手は、松本ひとみ（大阪体大、市立神港高出）29点だった。

成　蹊 15（9－0 6－3）3 関　大
大阪体大 35（20－1 15－0）1 大阪薬大
武庫川女 29（13－2 16－2）4 奈良教大
武庫川女 29（21－0 8－5）5 大阪薬大
大阪体大 34（16－0 18－1）1 奈良教大
成　蹊 20（9－3 11－1）4 大阪教大
成　蹊 19（12－2 7－2）4 奈良教大
大阪体大 28（16－1 12－0）1 関　大
大阪教大 10（7－0 3－3）3 大阪薬大
成　蹊 21（12－0 9－1）1 大阪薬大
大阪教大 17（6－2 11－3）5 奈良教大
武庫川女 24（13－2 11－2）4 関　大
関　大 16（9－3 7－5）8 奈良教大
武庫川女 21（8－5 13－5）10 大阪教大
大阪体大 11（7－4 4－1）5 成　蹊
大阪体大 17（10－0 7－2）2 大阪教大
武庫川女 24（12－4 12－2）6 成　蹊
大阪薬大 12（8－6 4－5）11 関　大
大阪薬大 7（5－3 2－1）4 奈良教大
大阪教大 13（7－4 6－4）8 関　大
武庫川女 8（1－2 7－4）6 大阪体大

得	【武庫】		【体大】	得
0	六車	GK	滝本	0
0	西川	GK	柴田	0
1	小西	FP	松本	0
2	佐藤	FP	青木	0
0	恒川	FP	浅井	1
1	福島	FP	平山	2
1	谷	FP	大竹	1
1	榎崎	FP	田辺	2
2	今井	FP	大谷	0
0	木下	FP	中津	0
0	坂本	FP	加藤	0
0	菊地	FP	船橋	0
8	（2）	PT	（0）	6

（審・柳川、松尾）

【順位】①武庫川女6戦全勝②大阪体大5勝1敗③成蹊4勝2敗④大阪教大3勝3敗⑤大阪薬科大・関大1勝5敗奈⑦良教大（新加盟）6敗

九州産大5連勝

女子は福岡教大勝つ

第14回全九州学生選手権は、5月15、16日の2日間、福岡教大体育館を主会場に、男子18、女子2校が参加してトーナメントで行われた。

男子は、今年も福岡勢が強味をみせ、ベスト8のうち5つを占め決勝は、前回同よう九州産大×福岡教大の対戦となり、九州産大が前半から押し気味に試合を進めて快勝、5年連続優勝を飾った。

女子は、福岡教大×福岡大の対抗戦となり、福岡教大の初優勝が決まった。

▽男子1回戦（2試合）
福岡大（福岡）16－7 福岡工大（福岡）
熊本商大（熊本）23－20 九大（福岡）

▽同2回戦
福岡教大（福岡）19－10 九州工大
西南学院（福岡）16－14 熊本大（熊本）
九州東海（熊本）13－8 長崎大（長崎）
九州産大（福岡）28－6 熊本工大（熊本）
鹿児島大（鹿児島）23－14 長崎造船（長崎）
福岡大 21－5 東海（福岡）
久留米工大（福岡）11－10 大分大（大分）
熊本商大 23－7 宮崎大（宮崎）

▽同準々決勝
福岡教大 29－13 西南学院
熊本商大 29－9 久留米工大
福岡大 13－7 九州東海
九州産大 22－9 鹿児島大

▽同準決勝
福岡教大 22－18 福岡大
九州産大 23－19 熊本商大

▽同3位決定戦
熊本商大 24－21 福岡大

▽同決勝
九州産大 23（12－9 11－5）14 福岡教大

▽女子決勝
福岡教大 18（11－6 7－3）9 福岡大

中国は愛媛大が2連勝

中四国学生春季リーグ戦は、5月8、9日の2日間、岡山大球技場で行われた。

男子1部は6校が各4試合という〝変則総当り〟で進められ、上り坂の愛媛大が、最終戦で山口大の食い下りをかわして4勝、2シーズン連続優勝を飾った。

同2部は、新たに高知大が参加予選ラウンドのあと3校による1～3位決定リーグで岡山大が2度目の優勝を遂げた。

女子は3校のリーグ戦で争われ山口大が、岡山県短大、広大福山を制した。

（詳報次号）

ハンドボールタウン

HAND BALL TOWN

ハンドボールタウン

★岐阜県協会企画行事への参加をご案内します

岐阜県協会では、左記の二つの催しを本年より実施致します。

この行事はいづれも、今日全国的な課題として、種々の論議がある所でありますが、岐阜県では行事の場を提供し、参加して頂いた先進の方達の指導を得て年々改善し継続の催しに、発展させたいと考え実施に踏み切りました。

志ある方々の参加を歓迎します

行事要項を御請求になれば送付致しますが、施設上の制約があるため人数は先着順打ち切りとさせていただきます。(電話の問合わせは御遠慮下さい)。

◇乗鞍山ハンドボール少年団第1回交歓会

(主旨) 少年団(小学生)参加者の親善、交流の場として、愛好の少年や、父兄、指導者間で、ゲーム・意見の交流など、乗鞍山雲の上の高原で、二泊三日を共に楽しく過す。

一、場所 岐阜県高山市松木 国立乗鞍青年の家

一、期日 昭和五十一年八月四日〜六日

一、参加者 現在少年団活動としているもの、又は、採用しようとの意志を持つ団体で、傷害、疾病に対する責任の所在の明確な少年団。

一、日程案、八月四日午後一時現地集合、研修会、意見交歓会、夜映画、講演、五日午前野外交歓ゲーム、練習会、午後交歓ゲーム、(野外炊飯)夜キャンプファイヤー(キャンドルサービス)

六日解散(乗鞍遊覧、高山遊覧)希望者

一、人員 一四〇名にて打切り

一、問合わせ及び申込書請求先

岐阜県羽島市竹鼻町、羽島高校内

岡田重博さん

一、交通、宿泊の問合わせ先は高山市松木町「国立乗鞍青年の家」中島康さん。

◇ギフ・カップ争奪「全国女子クラブ選手権大会」

(主旨)一般女子のクラブチームに交流、交歓の場を提供し、併せて将来のママさんハンドボールの素地になればと、従来本県で実施されて来た大会をオープンにした。

一、会場 岐阜市・岐阜県民体育館(二面コート)

一、期日、十二月十八日(土)十九日(日)

参加者制限

1.日本ハンドボール協会一般B登録

2.学連、実連競技会参加以外の競技者

3.所属府県協会の参加承認を得たもの

4.七月一日申込受け付け開始、先着十二チームで打切り

一、大会要項の請求または問合わせ先

岐阜県羽島市竹鼻町羽島高校内

岡田重博さん

なお、大会事務局は九月一日以降

岐阜県羽島郡笠松町無動寺

岐阜県クラブ連盟事務局(田島静さん)に開設されます。





★颯爽と「ハンドボール・ルック」を!! 特製品ができあがりました

上の写真＜ハンドボール・バッグ＞と右の写真＜ハンドボールTシャツ＞を見て下さい。

日本協会財務部が、協会資金獲得のため、一流メーカーの協力を得て6月10日から販売を始めた品です。

すでに各都道府県協会を通じて申しこみを受けつけましたので、さっそく手にし、身につけたかたも多いでしょう。

まだ申しこまれていないかたは是非!!

本誌23頁(←)に申しこみ書が刷りこんであります。必ず所属の都道府県協会を通じて申しこんで下さい。

Tシャツは L・M・Sの3サイズがあり、いずれも千九百円

ハンドボールバッグは三千九百円です。

このほか、「ハンドボール・ネクタイ止め」(純銀製) 二、五〇〇円

「選手用バッジ」三〇〇円

「役員用バッジ」五〇〇円

「ハンドボール・バナー」一本一、五〇〇円

「ハンドボール・ネクタイ」(西陣特選) 一本三、五〇〇円

も用意されています。

ご贈答、記念、お祝いにもいいですよ。問合わせ・日本協会事務局(〇三—四六七—七〇九七)

★第4回土曜の集いは17日です

日本協会普及指導部による「土曜の集い」は、ハンドボールを楽しもうという企画です。

経験、男女、年令を一切問はずスポーツのできる服装でお集り下さい。参加費は一人百円。

次回は7月17日(土)17時から2時間東京オリンピック記念青少年総合センター体育館で開かれます

同体育館は小田急線「参宮橋」下車5分、このほか地下鉄千代田線「代々木公園」下車8分、

バスは京王帝都で新宿西口から渋谷東横前行き、渋谷西口から新宿京王百貨店行きで、いずれも「代々木5丁目」下車2分です。

車利用の場合は、首都高速4号線代々木ランプが目印です。

……………………………………切 り 取 り 線……………………………………

日本ハンドボール協会基金協賛品注文書

チーム名			
納品先名（氏名） 住所			（〒　　）
T シ ャ ツ　@ 1,700円	サイズ L	枚	円
	M	枚	円
	S	枚	円
ハンドボールバッグ　@ 3,400円		個	円
ネ ク タ イ　@ 3,500円		本	円
ハンドボールバナー　@ 1,500円		枚	円
ネクタイ・ピン　@ 2,500円		個	円
役 員 バ ッ ヂ　@ 500円		個	円
選 手 バ ッ ヂ　@ 300円		個	円
		合計金額	円

上記の通り申し込みます。

昭和　　年　　月　　日

申込者氏名　　　　　　　　　　㊞
住所

注文は各都道府県協会を通じて御申込下さい。受注後，約1カ月にて各都道府県協会を通じて現品を渡します。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

山梨社会人リーグ
韮崎クラブ
代表　横　森　　貞
事務所　韮崎高校内

山梨社会人リーグ
大月スワロー
代表　西　室　　覚

株式会社　**大　森　組**
代表取締役　大森　七五三造
専務取締役　大　森　篤　範
北海道上磯郡木古内町本町83

共同舗装工業株式会社
株式会社　斉　藤　組
共同生コンクリート株式会社
専務取締役　斎　藤　八　郎
北海道上磯郡上磯町字七重浜192

グリーンコミュニケーション
エレクトロニクスで未来を招く
日本電気株式会社山梨工場
山梨県山梨市小原西843
ＴＥＬ05532—2—3111(代)

大垣市ハンドボール協会長
伊　部　良　男
岐阜県大垣市林町六丁目八〇番地
オーミケンシ株式会社大垣工場

◇岐阜県実業団ハンドボール連盟◇

会　長	清　水　晴　次	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業取締役
副会長	柳　瀬　準　一	岐阜市茜部中島	二和家具工業取締役
理事長	森　島　清　明	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
理　事	隅　田　泰　生	不破郡垂井町宮代	帝人製機岐阜工場
	新　村　　茂	岐阜市茜部中島	二和家具工業本店
	泉　　文　俊	安八郡安八町大森	三洋電機岐阜工場
	安　武　英　巳	大垣市久徳町 239	太平洋工業
	浅　野　敏　夫	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
	高　橋　省　吾	大垣市神田町	揖斐川電工本社

◇愛知県実業団ハンドボール連盟加盟会社及び団体◇

アイシン精機株式会社
新日本製鉄株式会社　名古屋製鉄所
自衛隊春日井
大同製鋼株式会社
中部電力株式会社
トヨタ自動車工業株式会社
トヨタ車体株式会社
トヨタカローラ愛知株式会社
豊田自動織機株式会社
豊田工機株式会社
豊田合成株式会社
株式会社　トーメン名古屋支社
日本碍子株式会社
パイロットインキ株式会社
伏原紡織株式会社
ブラザー工業株式会社
三菱自動車工業株式会社
名古屋自動車製作所

（アイウエオ順）

◎全日本高校選手権各県予選記録①

太字は代表校

東北

◇**岩手県**

▼男子1回戦
福岡 13—11 釜石南
盛岡一 16(延)11 久慈
花巻農 23—6 生活学園
盛岡三 22—14 一の関工
水沢 30—7 花巻
盛岡商 17—4 岩手

▽同準々決勝
花巻北 14—8 福岡
盛岡一 16—6 花巻農
盛岡三 14—13 水沢
盛岡商 8—5 盛岡四

▽同準決勝
盛岡一 7(延)6 花巻北
盛岡商 11—10 盛岡三

▽同決勝
盛岡一 9—6 盛岡商
盛岡一は4年ぶり19度目の代表

▼女子1回戦
大原商 9—4 岩手女
花巻北 7—5 釜石南
花巻農 11—3 水沢
釜石商 14—1 福岡

▽同準々決勝
盛岡二 10—6 大原商
花巻北 12—4 黒沢尻南
花巻農 8—5 平舘
花巻南 10—0 釜石商

▽同準決勝
盛岡二 11—6 花巻北
花巻南 13—3 花巻農

▽同決勝
盛岡二 9(延)7 花巻南
盛岡二は3年連続6度目の代表

◇**宮城県**

▼男子1回戦
古川工 11—9 仙台一
宮城水産 11—10 榴ケ岡
一迫商 17—10 電子工
東北 18—10 祇園寺

▽同2回戦
古川工 12—10 古川商
仙台 14—8 宮城工
仙台三 21—0 東北学院
仙台商 20—9 東北
仙台二 14—9 宮城水産
塩釜 18—10 鶯沢工
仙台育英 10—5 築館
古川 16—6 一迫

▽同準々決勝
古川工 11—9 仙台
仙台三 12—8 仙台二
塩釜 11—7 仙台商
仙台育英 14—8 古川

▽同準決勝
仙台三 11—10 古川工
仙台育英 11—4 塩釜

▽同決勝
仙台育英 16—7 仙台三
仙台育英は5年連続5度目の代表

▼女子1回戦（3試合）
塩釜女 8—3 宮城二女
祇園寺 9—8 宮城一女
一迫商 4—3 古川商

▽同準々決勝
涌谷 13—3 塩釜女
宮城三女 21—1 祇園寺
飯野川 11—2 仙台女商
古川女 11—3 一迫商

▽同準決勝
涌谷 12—2 宮城三女
古川女 8—7 飯野川

▽同決勝
涌谷 7—5 古川女
涌谷は7年連続24度目の代表

北信越

◇**長野県**

▼男子1回戦（2試合）
野沢北 12—9 北佐久農
上田千曲 15—3 蟻ケ崎

▽同準々決勝
坂城 34—9 野沢北
美須々丘 17—12 小諸商
屋代 19—9 臼田
上田 19—2 上田千曲

▽同準決勝
坂城 27—9 美須々丘
上田 9—8 屋代

▽同3位決定戦
屋代 13—7 美須々丘

▽同決勝
坂城 27—8 上田
坂城は2年連続3度目の代表

▼女子決勝リーグ
小諸商 24—2 上田城南
北佐久農 10—5 佐久
佐久 4—2 上田城南
美須々丘 19—4 北佐久農
小諸商 11—2 佐久
美須々丘 30—4 上田城南
北佐久農 6—2 上田城南
美須々丘 24—2 佐久
小諸商 24—0 北佐久農
美須々丘 15—3 小諸商
【順位】①美須々丘＝初出場②小諸商③北佐久農④佐久⑤上田城南

◇**新潟県**

▼男子1回戦（2試合）
巻 14—10 中越
新潟明訓 21—9 中条工

▽同準決勝
柏崎工 23—14 巻
柏崎 24—6 新潟明訓

▽同決勝
柏崎工 23—6 柏崎
柏崎工は4年連続10度目の代表

▼女子決勝リーグ
新潟江南 17—3 新潟明訓
巻 6(延)5 新潟明訓
新潟江南 12—4 巻
【順位】①新潟江南＝2年連続2度目の代表②巻③新潟明訓

◇**石川県**

▼男子1回戦（1試合）
小松 21—14 津幡

▽同2回戦
小松工 18—5 小松
寺井 20—5 星稜
二水 23—21 羽咋
県工 29—2 松陵工
松任 26—5 金沢市工
北陸大谷 18—7 泉ケ丘
宝達 21—16 金沢商
小松商 30—11 錦丘

▽同準々決勝
寺井 12—9 小松工
県工 20—13 二水
北陸大谷 13—7 松任
小松商 26—7 宝達

▽同準決勝
寺井 14—9 県工
小松商 16—15 北陸大谷

▽同決勝
寺井 17—8 小松商
寺井は初出場

▼女子1回戦（1試合）
小松商 13—5 宝達

▽同準々決勝
北陸大谷 19—5 小松商
星稜 12—2 短大高
金沢商 21—1 珠洲実業
松任 11—3 津幡

▽同準決勝
北陸大谷 16—4 星稜
金沢商 9—7 松任

▽同決勝
北陸大谷 18—5 金沢商
北陸大谷は2年ぶり2度目の代表

▽参考記録
小松市女 18—2 北陸大谷
小松市女 12—1 金沢商
小松市女は推せん出場、12年連続12度目の代表。

◎ 全日本高校選手権各県予選記録②

太字は代表校

東海

◇静岡県
▼男子1回戦
沼津工 20—9 森
沼津東 16—5 気賀
清水東 13—11 吉原商
富士 不戦勝 天竜林業
星陵 10—9 静岡工
春野分校 14—6 修善寺工
▽同2回戦
静岡農 17—6 沼津工
二俣 6—7 土肥
静岡東 18—6 沼津東
御殿場 17—10 清水東
浜松南 8—5 富士
三島南 不戦勝 静清工
御殿場南 12—6 星稜
清水市商 15—6 春野分校
▽同準々決勝
静岡農 11—7 二俣
静岡東 9—6 御殿場
浜松南 17—11 三島南
御殿場南 16—7 清水市商
▽同準決勝
静岡農 20—15 静岡東
浜松南 9—8 御殿場南
▽同決勝
浜松南 17—15 静岡農
浜松南は初出場
▼女子1回戦
気賀 4—3 土肥
二俣 7—4 藤枝西
清水西 7—1 沼津女
御殿場 13—5 清水女
静岡城北 9—2 富士宮東
▽同準々決勝
清水市商 16—2 気賀
二俣 6—1 吉原
清水西 4—2 御殿場
静岡城北 7—2 浜松南
▽同準決勝
清水市商 4—2 二俣
清水西 2—1 静岡城北
▽同決勝
清水市商 7—4 清水西
清水市商は4年連続5度目の代表

◇愛知県（県中央大会）
▼男子1回戦
名古屋市工 25—10 安城
豊橋東 19—2 東山工
津島 12—11 岡崎北
名古屋市工芸 18—6 瑞陵
桜台 22—6 新城東
愛知 23—1 一宮西
城西 15—9 春日井
名南工 15—10 豊橋工
▽同準々決勝
名古屋市工 36—6 豊橋東
名古屋市工芸 24—7 津島
桜台 14—9 愛知
城西 16—12 名南工
▽同準決勝
名古屋市工 17—8 名古屋市工芸
桜台 14—8 城西
▽同決勝
名古屋市工 16—9 桜台
名古屋市工は2年連続2回目の代表
▼女子1回戦
市邨 21—2 岡崎
東海商 6—3 蟹江
西尾 9—4 国府
名古屋商 9—4 南陽
緑ケ丘商 10—3 半田
名短付 10—7 豊丘
一宮 15—12 豊橋東
岩津 15—3 桜台
▽同準々決勝
市邨 19—2 東海商
西尾 9—5 名古屋商
緑ケ丘商 19—6 名短付
一宮 9—8 岩津
▽同準決勝
市邨 14—4 西尾
緑ケ丘商 8—6 一宮
▽同決勝
市邨 10—4 緑ケ丘商
市邨は2年連続12度目の代表

近畿

◇滋賀県一次予選
▼男子1回戦（2試合）
安曇川 18—9 能登川
彦根工 20—0 長浜商工
▽同二次予選進出校決定戦
彦根東 24—8 近江
八幡工 22—9 彦根工
安曇川 10—6 高島
彦根西 10—9 米原
▼女子1回戦（3試合）
八幡商 9—7 米原
高島 16—4 能登川
彦根南 5—4 彦根東
▽同二次予選進出校決定戦
愛知 6—2 彦根南
大津商 7—1 安曇川
守山女 9—2 高島
八幡商 8—3 彦根西

四国

◇高知県
▼男子1回戦（2試合）
須崎 18—8 中村
追手前 24—3 須崎工
▽同準々決勝
土佐 19—12 須崎
高知西 20—7 中芸
吾北 27—12 宿毛工
追手前 16—9 幡多農
▽同準決勝
土佐 8—7 高知西
吾北 10—5 追手前
▽同3位決定戦
高知西 17—7 追手前
▽同決勝
土佐 12—9 吾北
土佐は2年連続12度目の代表
▼女子予選リーグA組
中村 17—6 佐川
中村 23—2 追手前
佐川 13—3 追手前
▽同B組
城山 14—6 中芸
城山 16—1 高知西
高知西 6—1 中芸
▽同3位決定戦
佐川 4—3 高知西
▽同決勝
中村 7—4 城山
中村は初出場

◇愛媛県
▼男子1回戦
宇和島南 24—8 松山西
松山東 15—9 今治西
松山北 18—8 今治南
新居浜商 22—11 松山北中島
松山南 16—7 吉田
松山商 20—9 新居浜東
松山工 22—8 今治工
新居浜工 15—4 新田
▽同準々決勝
宇和島南 12—8 松山東
新居浜商 14—11 松山北
松山南 22—7 松山商
新居浜工 22—2 松山工
▽同準決勝
宇和島南 13—10 新居浜商
新居浜工 28—10 松山南
▽同決勝
新居浜工 7—3 宇和島南
新居浜工は2年ぶり22度目の代表
▼女子1回戦
西条 12—5 伊予農
新居浜西 13—5 東温
松山商 20—3 今治南
土居 16—3 松山北中島
新居浜東 11—2 今治西
▽同準々決勝
新居浜商 15—3 西条
松山椢 14—2 新居浜西
土居 8—6 大島
松山西 7—3 新居浜東
▽同準決勝
新居浜商 4—1 松山商
松山西 13—4 土居
▽同決勝
新居浜商 8（延）5 松山西
新居浜商は10年連続10度目の代表

◎全日本高校選手権各県予選記③

太字は代表校

中国

◇山口県

▼男子1回戦
山口 14―11 早鞆
野田学園 17―11 坂上
南陽工 19―8 下関西
小野田工 19―8 宇部鴻城
下松工 17―7 徳佐

▽同2回戦
下関中央工 29―6 山口
野田学園 記録不明 不関一
防府商 12―6 高水
岩国 24―2 南陽工
徳山工 31―4 小野田工
徳山 26―11 下関工
宇部工 14―10 岩国商
岩国工 26―11 下松工

▽同準々決勝
下関中央工 8―4 野田学園
岩国 17―3 防府商
徳山工 22―10 徳山
岩国工 19―5 宇部工

▽同準決勝
下関中央工 12―10 岩国
徳山工 16―12 岩国工

▽同決勝
下関中央工 21―13 徳山工
下関中央工は4年ぶり10度目の優勝

▼女子1回戦（4試合）
高水 21―1 早鞆
徳山商 7―6 美弥中央
岩国 14―1 坂上
防府商 13―8 下関西

▽同準々決勝
徳山 13―5 高水
岩国商 18―5 徳山商
岩国 12―5 田部
山口中央 16―8 防府商

▽同準決勝
山口中央 14―7 岩国
徳山 7―2 岩国商

▽同決勝
徳山 9―7 山口中央
徳山は4年連続19度目の優勝

◇岡山県

▽男子1回戦
津山工 16―9 大安寺
邑久 11―9 成羽
児島 26―5 落合
高梁工 20―10 総社
倉敷商 17―4 芳泉
倉敷工 24―3 津山
天城 14―5 水工
岡山工 17―10 金川

▽同準々決勝
津山工 16―12 邑久
児島 19―5 高梁工
倉敷工 8―5 倉敷商
天城 13―12 岡山工

▽同準決勝
津山工 10―9 児島
倉敷工 12（分）12 天城
PTコンテスト5―2で倉敷工の勝ち

▽同決勝
倉敷工 14―12 津山工
倉敷工は12年ぶり2度目の代表

▼女子準々決勝（＝1回戦）
津山商 17―2 岡山女
操山 7―4 津山
真備 16―4 倉敷中央
金川 9―2 西大寺

▽同準決勝
津山商 23―2 操山
真備 7―5 金川

▽同決勝
津山商 5―4 真備
津山商は初出場

九州

◇福岡県

▼男子1回戦
門司 9―7 西田川
福岡 12―6 泰星
小倉工 13―9 九州産
久工大附 20―7 福岡工
小倉西 13―5 宗像
明善 11―6 西南
田川工 14―11 香椎
東海五 10―4 若松

▽同準々決勝
福岡 15―6 門司
久工大附 12―7 小倉工
小倉西 8―7 明善
東海五 13―10 田川工

▽同準決勝
久工大附 16―5 福岡
東海五 13―10 小倉西

▽同決勝
東海五 7―6 久工大附
東海五は初出場

▼女子準々決勝（＝1回戦）
古賀 5―4 筑紫中央
宗像 6―5 明善
東海五 7―1 福岡女
筑紫女 6―5 浮羽

▽同準決勝
古賀 15―7 宗像
筑紫女 14―4 東海五

▽同決勝
古賀 7―6 筑紫女
古賀は4年連続5回目の代表

◇大分県

▼男子1回戦（1試合）
大分電波 15―7 大分商

▽同準々決勝
大分東 32―0 国東農
雄城台 21―3 国東
別府鶴見ケ丘 19―10 日田商
大分電波 16―7 鶴崎工

▽同準決勝
大分電波 13―10 雄城台
大分東 21―5 別府鶴見ケ丘

▽同3位決定戦
雄城台 12―6 別府鶴見ケ丘

▽同決勝
大分東 23―12 大分電波
大分東は4年連続5度目の代表

▼女子決勝リーグ
青山 11―3 佐賀関
玖珠農 9―8 雄城台
佐賀関 9―3 中津北
大分東 18―5 玖珠農
青山 13―2 中津北
大分青 19―0 雄城台
佐賀関 6―3 玖珠農
大分東 22―6 青山
【順位】①大分東＝5年連続10度目の代表②青山

代表校速報

◇茨城県、男・麻生、女・水海道二
◇栃木県 男女とも国学院栃木
◇山梨県 男・吉田、女・日川
◇福井県 男・羽水、女・仁愛女
◇三重県 男・四日市工、女・津女子
◇和歌山県 男・県和歌山商、女・新宮
◇兵庫県 男・明石南、女・夙川
◇奈良県 男・奈良、女・生駒
◇鳥取県 男・境港工、女・米子南商
◇香川県 男・工芸、女・三本松
◇熊本県 男・熊本市商、女・熊本女商
◇沖縄県 男・前原、女・浦添
◇宮崎県 男・延岡、女・小林商

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

各地の記録

佐賀教員、九州制す

第12回九州(一般男子)選手権は5月15、16日佐賀・神埼高体育館に14チームが参加して行なわれ、今年も教職員チームが安定した攻守で上位に進出、国体を6カ月に控えた佐賀教員が、4度目の優勝を狙う熊本教員のはげしい追いこみをかわして初優勝を飾った。佐賀代表の優勝は初。4連覇を狙った鹿児島教員団は熊本教員にPTコンテストの末、惜敗した。

▽1回戦
ブリヂストン久留米(福岡) 29―18 自衛隊鹿屋(鹿児島)
沖縄教員 22―17 熊本ク(熊本)
佐賀教員 棄権 鶴城会ク(大分)
宮崎ク(宮崎) 20―18 海自佐世保(長崎)
宮崎教員 20―13 佐賀一般選抜(佐賀)
西南ク(福岡) 30―16 佐世保ク(長崎)

▽準々決勝
ブリヂストン久留米 17―15 沖縄教員
佐賀教員 37―14 宮崎ク
西南ク 31―19 宮崎教員
熊本教員 19(延・分)19 鹿児島教員
PTコンテストで熊本の勝ち

▽準決勝
佐賀教員 18(9―8, 9―9)17 ブリヂストン久留米
熊本教員 24(10―8, 14―11)19 西南ク

▽決勝
佐賀教員 26(13―7, 13―17)24 熊本教員

女子クラブも佐賀が強味

第6回九州女子クラブ大会は5月15、16日佐賀・神埼高体育館に6県の代表7チームが参加して行われ、予想どおり佐賀一般選抜が強味をみせて快勝、佐賀クを名乗っていた時代を含めて3年連続4回目の優勝を遂げた。

▽1回戦(3試合)
長崎ク(長崎) 24―7 九州女学院ク(熊本)
佐賀一般選抜(佐賀) 24―0 都城泉友ク(宮崎)
大分ク(大分) 17(延・分)17 神埼ク(佐賀)
PTコンテストで大分の勝ち

▽準決勝
佐賀一般選抜 20(10―2, 10―4)6 長崎ク
大分ク 15(10―5, 5―7)12 じゅろもん・ク(福岡)

▽決勝
佐賀一般選抜 23(10―4, 13―5)9 大分ク

ジャスコ、ブラザー破る

第12回東海実業団選手権(女子の部)は、5月23日四日市市の霞ケ浦体育館に4チームが参加して行われ、トップチームのジャスコ(三重)×ブラザー工業(愛知)が優勝を争い、大激戦の末、延長後半ジャスコが決勝点、初優勝した。

▽準決勝(=1回戦)
ジャスコ(三重) 25(13―0, 12―1)1 伏原紡織(愛知)
ブラザー工業(愛知) 22(13―0, 9―1)1 三洋電機(岐阜)

▽3位決定戦
三洋電機 16(6―5, 10―5)10 伏原紡織

▽決勝
ジャスコ 11(4―6, 5―3, 1―1, 1―0)10 ブラザー工業

新日鉄名古屋勝つ

第2回東海男子実業団トーナメントは5月9、23日の2日間四日市市に10チームが参加して行われ新日鉄名古屋(愛知)の初優勝となった。

この大会の上位2チームが、秋の東海実業団リーグ(第12回東海実業団選手権男子)を大同製鋼(愛知)、本田技研鈴鹿(三重)などと争う。

▽1回戦(2試合)
トヨタ合成(愛知) 22―13 帝人製機(岐阜)
大同製鋼高蔵(愛知) 26―13 三洋電機(岐阜)

▽準々決勝
トヨタカローラ愛知 21―16 三菱油化(三重)
新日鉄名古屋(愛知) 17―15 トヨタ合成
日本合成ゴム(三重) 17―16 日本碍子(愛知)
大同製鋼高蔵 20―17 日本耐酸壜(岐阜)

▽準決勝
新日鉄名古屋 26(15―4, 11―8)12 トヨタカローラ愛知
大同製鋼高蔵 19(6―6, 13―4)10 日本合成ゴム

▽3位決定戦
トヨタカローラ愛知 12(6―2, 6―7)9 日本合成ゴム

▽決勝
新日鉄名古屋 13(11―2, 2―8)10 大同製鋼高蔵

▼石川県一般春季選手権(5月・金沢美大体育館)=男子のみ

▽準々決勝
金沢市役所 32―17 金沢大
金沢工大 14―9 小松ク
金沢美工大 20―4 金沢医大
あすなろク 20―6 県工ク

▽準決勝
金沢市役所 17―13 金沢工大
あすなろク 33―9 金沢美工大

▽決勝
金沢市役所 26(14―3, 12―10)13 あすなろク

男女とも愛知勢が優勝

第7回東海地区中学生大会は6月13日、浜松市・江西中に各県の男女代表を集めてトーナメントで行われ、男女とも愛知代表が強みを示して優勝した。

▽男子準決勝(=1回戦)
御東(愛知) 18(8―4, 10―7)11 須津(静岡)
平田野(三重) 8(3―1, 5―4)5 長森(岐阜)

▽同3位決定戦
長森 14(8―4, 6―7)11 須津

▽同決勝
御東 21(6―6, 15―5)11 平田野

▽女子準決勝(=1回戦)
長森(岐阜) 11(7―4, 4―2)6 東(静岡)
名塚(愛知) 12(4―2, 8―1)3 中部(三重)

▽同3位決定戦
中部 10(5―3, 5―3)6 東

▽同決勝
名塚 7(2―2, 5―2)4 長森

(おことわり) 昨年9月号以来、県レベル以下の中学生大会記録の掲載を見合わせておりますが、誌面の関係で、今後もしばらくこのままとします。ご了承下さい。

七戸ユニオンの攻撃目立つ

▼**第3回青森県男子社会人春季大会**（5月・野辺地高校体育館）

▽予選ラウンドA組
弘前大 17―12 合浦送球会
海自2空群 21―13 合浦送球会
海自2空群 15―14 弘前大
▽同B組
青森ク 39―8 青森教員ク
▽同C組
七戸ユニオン 34―11 鰺ケ沢ク
▽決勝リーグ
青森ク 22―14 海自2空群
七戸ユニオン 24―20 海自2空群
七戸ユニオン 30―25 青森ク
【順位】①七戸ユニオン②青森ク③海上自衛隊第2航空群

高校は柏木農と青森西

▼**第26回青森県高校春季選手権大会**（5月・青森西高）

▽男子準々決勝
弘前南 18―11 七戸
三本木 12―7 青森
柏木農 27―12 五所川原
野辺地 10―9 青森商
▽同準決勝
柏木農 15―13 弘前南
三本木 17―12 野辺地
▽同決勝
柏木農 13（5―3、8―6）9 三本木
▽女子1回戦（2試合）
三本木 16―4 柏木農
野辺地 11―3 鰺ケ沢
▽同準決勝
青森西 14―1 三本木
七戸 9―6 野辺地
▽同決勝
青森西 20（11―2、9―4）6 七戸

女子は三宅が着々

▼**東京都高校春季大会**（5月）

▽男子決勝リーグ
日体荏原 13―12 小岩
拓大一 20―7 三宅
拓大一 10―9 小岩
日体荏原 13―6 三宅
日体荏原 12―7 拓大一
小岩 12―10 三宅
【順位】①日体荏原②拓大一③小岩④三宅
▽女子決勝リーグ
小平 12―5 江戸川
三宅 14―2 国立
小平 6―3 国立
三宅 11―3 江戸川
三宅 12―9 小平
江戸川 5―3 国立
【順位】①三宅②小平③江戸川④国立（くにたち）

小林市、3部門に優勝

▼**第30回宮崎県民体育大会**（5月宮崎西高）

▽一般男子準決勝
宮崎市 25―16 児湯郡
延岡市 19―12 日南市
▽同決勝
宮崎市 23（5―2、18―14）16 延岡市
▽同女子決勝リーグ
小林市 5―4 都城市
宮崎市 9―5 都城市
小林市 5―3 宮崎市
【順位】①小林市②宮崎市③都城市
▽少年男子決勝
小林市（小林工）15（6―0、9―7）7 延岡市（延岡高）
▽同女子決勝
小林市（小林商）8（5―3、3―0）3 西都市（西都商）

男女とも生駒ク快勝

▼**第25回奈良県春季大会**（4月・生駒中）

▽一般男子1回戦（1試合）
添上ク 24―11 安堵ク
▽同準決勝
奈良ク 17―12 添上ク
生駒ク 24―8 郡山松下
▽同決勝
生駒ク 25（14―7、11―7）14 奈良ク
▽同女子決勝
生駒ク 7（2―4、5―2）6 生駒クB
▽高校男子決勝リーグ
奈良 14―9 添上
奈良 11―10 天理
添上 18―13 天理
【順位】①奈良②添上③天理
▽同女子1回戦（3試合）
一条 7―6 添上
帝塚山 10―7 桜井商
生駒 11―6 十津川
▽同準決勝
一条 16―9 帝塚山
生駒 7―6 郡山
▽同決勝
一条 9（7―1、2―2）3 生駒

寺井、小松勢破り初優勝

▼**石川県高校男子春季大会**（4日金沢泉丘高）＝女子は既報

▽準々決勝
小松 17―15 星稜
寺井 15―9 松任
北陸大谷 19―17 小松商
小松工 21―6 金沢商
▽準決勝
寺井 13―11 小松
小松工 15―9 北陸大谷
▽決勝
寺井 13（6―3、7―7）10 小松工

▼**京都市男子社会人トーナメント**（5月・洛東高）

▽準決勝
伏見ク 17―14 洛東ク
京都教員ク 25―8 ワコール
▽決勝
京都教員ク 18（7―8、11―4）12 伏見ク

▼**滋賀県春季高校大会**（5月、彦根東高）

▽男子準決勝
八幡工 22―9 彦根東
彦根西 15―12 安曇川
▽同決勝
八幡工 13（7―5、6―3）8 彦根西
▽女子決勝
守山女 9（4―1、5―1）2 愛知

★編集後記

□……モントリオール・オリンピックまであと16日。この雑誌がお手元に届くころには女子の結果も出ているハズ

選手たちは、日増しに強まるプレッシャーに耐えて、一まわり大きくなった感じ。

日本のハンドボール選手も〝国際級〟になったなあという印象をうけました。

□……男子も、参加することに喜びを感じていた4年前とちがい、なんとかベストエイトに、という意欲がみなぎっています

「出ればいい」「出るだけでいい」時期は過ぎました。

荒川理事長は、9月早々〝モスクワ構想〟を明きらかにすると伝えられていますが、新しいステップをどこから踏み出すかは、すべてモントリオールしだいです。

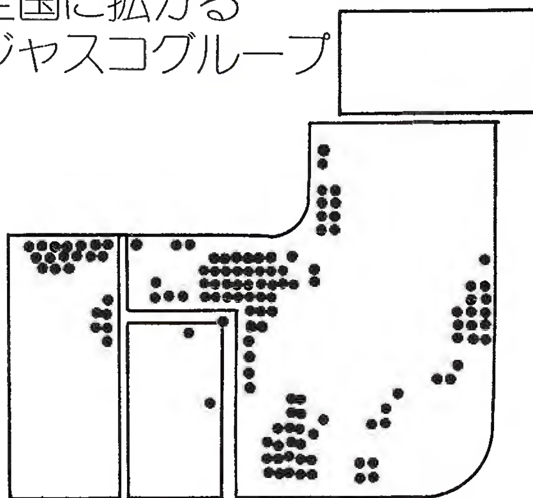
□……ハンドボールタウン欄（22頁）でご紹介した岐阜協会の二行事、ユニークな企画に注目が集まります。

日本協会の〝土曜の集い〟（東京）も順調のようで、斯界のあらゆる歯車が、快く回転かみ合いはじめて来ました。

□……最近2カ月、読者投書欄「明日への提言」への寄稿がゼロです。（S）



2府23県160店舗
全国に拡がる(S51.2現在)
ジャスコグループ







ジャスコ

本　社／大阪市福島区大開1－8－8

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一四三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五一年六月二十五日印刷 昭和五一年七月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東　谷区神南一ー一ー一
電　代表(467)三一一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価二百八十円（年間購読料二千七百円）